

令和2年度

川口市教育委員会事務点検・外部評価報告書

(平成31年(令和元年)度実施事業)

川口市教育委員会

も く じ

■ はじめに

| | | |
|---------------|---|---|
| 1 趣 旨 | — | 1 |
| 2 目 的 | — | 1 |
| 3 外部評価の対象 | — | 1 |
| 4 外部評価の方法 | — | 1 |
| 5 評 価 | — | 1 |
| 6 外部評価結果 | — | 2 |
| 7 今後の取り組み | — | 2 |
| 8 令和2年度外部評価委員 | — | 2 |

■ 令和2年度評価結果一覧

| | | |
|--|---|---|
| | — | 3 |
|--|---|---|

■ 事務点検・外部評価調書

| | | |
|--|---|---|
| | — | 4 |
|--|---|---|

基本目標 I

| | | |
|---|-------|----|
| 指標(1) “他者との関係”における小学校1年生児童の育ちの傾向 | — | 5 |
| 指標(2) 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合 | —— | 7 |
| 指標(3) 埼玉県学力・学習状況調査において平成27年度の 小学校4年生が埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合 | — | 9 |
| 指標(4) 中学生・高校生海外派遣事業への応募者数 | ————— | 11 |
| 指標(5) 特別支援学級設置校数 | ————— | 13 |
| 指標(6) 全国学力・学習状況調査の質問紙のうち、 自尊感情、規範意識を示す割合 | ————— | 15 |
| 指標(7) 人権感覚育成プログラムを校内研修で使用した割合 | ————— | 17 |
| 指標(8) 小児生活習慣病予防検診対象者の割合 | ————— | 19 |
| 指標(9) 体力テストの全国平均を上回っている 項目数の割合(小学校6年生、中学校3年生) | —— | 21 |
| 指標(10) 高等学校卒業後、大学への進学者の割合 | ————— | 23 |

基本目標Ⅱ

| | | |
|-------|-----------------------------|-----|
| 指標(1) | 教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合 | 2.5 |
| 指標(2) | 児童生徒の交通事故発生件数 | 2.7 |
| 指標(3) | いじめの解消率 | 2.9 |
| 指標(4) | 不登校児童生徒の割合 | 3.1 |
| 指標(5) | 各学校における「学校応援団平均活動回数」(年間) | 3.3 |

基本目標Ⅲ

| | | |
|-------|--------------------|-----|
| 指標(1) | 生涯学習施設の年間利用者数 | 3.5 |
| 指標(2) | 公民館及び専門施設の年間講座参加者数 | 3.7 |
| 指標(3) | 図書館年間利用者数(入館者数) | 3.9 |
| 指標(4) | 科学館の年間利用者数 | 4.1 |
| 指標(5) | スポーツ施設の年間利用者数 | 4.3 |
| 指標(6) | 人材の登録者数 | 4.5 |
| 指標(7) | アートギャラリーの年間利用率 | 4.7 |

基本目標Ⅳ

| | | |
|-------|---------------------|-----|
| 指標(1) | 文化財センター及び分館への年間来館者数 | 4.9 |
| 指標(2) | 古文書・写真等資料の収蔵点数 | 5.1 |

基本目標Ⅴ

| | | |
|-------|-----------------------|-----|
| 指標(1) | 新市立高等学校建設における工事日程の進捗率 | 5.3 |
|-------|-----------------------|-----|

はじめに

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。また、点検及び評価を行うに当たり、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

この報告書は、同法の規定に基づき、川口市教育委員会が行った事務点検・外部評価（以下「外部評価」という。）の結果をまとめたものです。

2 目 的

川口市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、効果的な教育行政の推進に資すること、並びにその結果を公表し市民への説明責任を果たしていくことを目的としています。

3 外部評価の対象

川口市教育委員会では、本市の教育の振興を総合的かつ計画的に推進していくための指針である「川口市教育大綱」に基づいて、「川口市教育振興基本計画」を策定しました。計画の推進にあたりましては、25の指標を掲げており、この指標を外部評価の対象としました。

4 外部評価の方法

25項目の評価指標に対する内部評価に基づき、外部評価会議において、学識経験者等からの評価を受けました。

5 評 価

「平成31年（令和元年）度の実施状況」、「令和2年度以降の取り組み」及び「指標の達成状況」の内容等を総合的に判断し、次のA～Dの4つの区分としました。

「A」…基本目標の目的実現に向けて31年度の目標は達成されている。

「B」…基本目標の目的実現に向けて31年度の目標は概ね達成されている。

「C」…上記Bと比較して達成状況は低い。

「D」…基本目標の目的実現に向けて31年度の目標はほとんど達成されていない。

6 外部評価結果

外部評価結果では、全25指標の内、「A：達成されている」との評価が8指標、「B：概ね達成されている」との評価が15指標、「C：達成状況は低い」との評価が2指標でありました。

7 今後の取り組み

川口市教育委員会では、今回の結果及び意見等をふまえ、本市教育行政のさらなる発展を目指し、具体的な取り組みを進めていきます。

8 令和2年度外部評価委員

(50音順 敬称略)

| 氏名 | 備考 |
|-----------|---------------|
| 小 木 香 | 川口市PTA連合会 副会長 |
| 久 保 村 里 正 | 文教大学 教育学部 教授 |
| 松 田 裕 之 | 川口市退職校長会 幹事 |

令和2年度 評価結果一覧

| 基本目標No. | 指標No. | 指標名 | 主管課 | 令和2年度 | | | | | | | | |
|---------------------------------|-------|---|-------|----------------|--------------|------------|-----------------|------------|--------------|------------|-----------------|--|
| | | | | 内部評価（職員における評価） | | | | 外部評価 | | | | |
| | | | | （A）達成されている | （B）概ね達成されている | （C）達成状況は低い | （D）ほとんど達成されていない | （A）達成されている | （B）概ね達成されている | （C）達成状況は低い | （D）ほとんど達成されていない | |
| 基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり | | | | | | | | | | | | |
| Ⅰ | (1) | “他者との関係”における小学校1年生児童の育ちの傾向 | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (2) | 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合 | 指導課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (3) | 埼玉県学力・学習状況調査において平成27年度の小学校4年生が埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合 | 指導課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (4) | 中学生・高校生海外派遣事業への応募者数 | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (5) | 特別支援学級設置校数 | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (6) | 全国学力・学習状況調査の質問紙のうち、自尊感情、規範意識を示す割合 | 指導課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (7) | 人権感覚育成プログラムを校内研修で使用した割合 | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (8) | 小児生活習慣病予防検診対象者の割合 | 学校保健課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (9) | 体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合（小学校6年生、中学校3年生） | 指導課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (10) | 高等学校卒業後、大学への進学者の割合 | 指導課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| 基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり | | | | | | | | | | | | |
| Ⅱ | (1) | 教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合 | 指導課 | | | ○ | | | | ○ | | |
| | (2) | 児童生徒の交通事故発生件数 | 指導課 | | | ○ | | | | | ○ | |
| | (3) | いじめの解消率 | 指導課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (4) | 不登校児童生徒の割合 | 指導課 | | | ○ | | | | | ○ | |
| | (5) | 各学校における「学校応援団平均活動回数」（年間） | 指導課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| 基本目標Ⅲ 市民が自己表現をめざせる環境づくり | | | | | | | | | | | | |
| Ⅲ | (1) | 生涯学習施設の年間利用者数 | 生涯学習課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (2) | 公民館及び専門施設の年間講座参加者数 | 生涯学習課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (3) | 図書館年間利用者数（入館者数） | 中央図書館 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (4) | 科学館の年間利用者数 | 科学館 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (5) | スポーツ施設の年間利用者数 | スポーツ課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (6) | 人材の登録者数 | 文化推進室 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (7) | アートギャラリーの年間利用率 | 文化推進室 | | ○ | | | | | ○ | | |
| 基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅳ | (1) | 文化財センター及び分館への年間来館者数 | 文化財課 | | | ○ | | | | ○ | | |
| | (2) | 古文書・写真等資料の収蔵点数 | 文化財課 | ○ | | | | | | ○ | | |
| 基本目標Ⅴ 教育行政経営の基盤強化 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅴ | (1) | 新市立高等学校建設における工事日程の進捗率 | 庶務課 | ○ | | | | | | ○ | | |
| 計 | | | | 7 | 14 | 4 | 0 | 8 | 15 | 2 | 0 | |

事務点検・外部評価調書

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(1) “他者との関係”における小学校1年生児童の育ちの傾向

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|--|--|--|--------------------|
| <p>「幼児期の教育との円滑な接続に関するアンケート」における、“他者との関係”（県推進“子育ての目安「3つのめばえ」”）に関する4項目についての割合。</p> <p>幼児期は生涯にわたる人格の基礎を形成する大切な時期であり、教育活動の充実を図る必要があることから、この指標を設定した。</p> | <p>小学校1年生児童の“他者との関係”における現状について、各項目の達成が8割に満たない状況である。幼児期において、人との関わり方を身につけさせることは重要であることから、この目標値を設定した。</p> | <p>小学校1年生 「身につけている、ほぼ身につけている」</p> <p>物を大切に →75%</p> <p>コミュニケーションをとる →78.8%</p> <p>返事やあいさつをする →71.2%</p> <p>がまんをする →51.9%</p> | <p>小学校1年生 「身につけている、ほぼ身につけている」</p> <p>物を大切に →80%</p> <p>コミュニケーションをとる →80%</p> <p>返事やあいさつをする →80%</p> <p>がまんをする →80%</p> | 28 |

平成31年（令和元年）度の実施状況

| ①実施時期 | H31.4.1～R2.3.31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|---|-------|------------|----|--|----|-------|-------|---|-------|--------------|-------|---|------|------------|-------|---|-------|--------|-------|---|-------|
| ②実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> 市内全小学校に「子育ての目安『3つのめばえ』家庭向けリーフレット」を配布するとともに、県作成の説明用プレゼンテーションの活用も周知することで、保護者会や学校・学年だより等で積極的に家庭教育の必要性を啓発し、保護者と学校が連携し目標達成に向け取り組んだ。 アンケート結果を踏まえ、学校訪問や要請訪問、教職員研修会等で具体的な方策を示し、豊かな心の育成を図るように指導を行った。 川口市教育委員会のHPに「3つのめばえ」に実践するための関わり方のヒントを載せ、広く周知した。 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を幼稚園、小学校において共通理解を図った。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③実施結果 | <p>9月に実施した市内全小学校1年生対象の「幼児期の教育との円滑な接続に関するアンケート調査」によると、「物を大切に」「がまんをする」について、目標値に届かなかった。その後各学校では、児童の実態に合わせて継続的に実施し、3月のアンケート結果では、目標値を達成することができた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>アンケート調査の結果</th> <th>9月</th> <th></th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>物を大切に</td> <td>71.1%</td> <td>→</td> <td>90.3%</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションをとる</td> <td>92.3%</td> <td>→</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>返事やあいさつをする</td> <td>80.7%</td> <td>→</td> <td>98.0%</td> </tr> <tr> <td>がまんをする</td> <td>55.7%</td> <td>→</td> <td>82.7%</td> </tr> </tbody> </table> | | | アンケート調査の結果 | 9月 | | 3月 | 物を大切に | 71.1% | → | 90.3% | コミュニケーションをとる | 92.3% | → | 100% | 返事やあいさつをする | 80.7% | → | 98.0% | がまんをする | 55.7% | → | 82.7% |
| アンケート調査の結果 | 9月 | | 3月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 物を大切に | 71.1% | → | 90.3% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| コミュニケーションをとる | 92.3% | → | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 返事やあいさつをする | 80.7% | → | 98.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| がまんをする | 55.7% | → | 82.7% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|---|
| ①実施時期 | R2.4.1～R3.3.31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | <ul style="list-style-type: none"> さらなる教育活動の充実に向け、「幼児期までに育ってほしい姿」を幼稚園、小学校で共通理解を図り、スタートカリキュラムを学校全体で取り組めるようにする。 学校訪問、要請訪問等で豊かな心の育成を図るよう指導にあたる。 生活科を中心に、具体的な活動や体験にあたり、多様な人々と触れ合うことができるようにする。 幼稚園・保育園との連携を積極的に進め、交流活動の充実を努める。 |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|---|---|---|--|---|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 物を大切にする →76% コミュニケーションをとる →79% 返事やあいさつをする →76% がまんをする →60% | 物を大切にする →77% コミュニケーションをとる →79.5% 返事やあいさつをする →77% がまんをする →65% | 物を大切にする →78% コミュニケーションをとる →79.5% 返事やあいさつをする →78% がまんをする →70% | 物を大切にする →79% コミュニケーションをとる →80% 返事やあいさつをする →79% がまんをする →75% | 物を大切にする →80% コミュニケーションをとる →80% 返事やあいさつをする →80% がまんをする →80% |
| | 物を大切にする →76.9% コミュニケーションをとる →75% 返事やあいさつをする →76.9% がまんをする →61.5% | 物を大切にする →71.2% コミュニケーションをとる →61.5% 返事やあいさつをする →82.7% がまんをする →63.5% | 物を大切にする →84.6% コミュニケーションをとる →90.1% 返事やあいさつをする →88.5% がまんをする →82.7% | 物を大切にする →90.3% コミュニケーションをとる →100% 返事やあいさつをする →98.0% がまんをする →82.7% | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|---|
| | A | 9月に行った調査は、「物を大切にする」71.1%「コミュニケーションをとる」92.3%「返事やあいさつをする」80.7%「がまんをする」55.7%となっており、それぞれの項目について目標値に達していないものがあった。しかし、3月に行った同様の調査では、「物を大切にする」90.3%「コミュニケーションをとる」100%「返事やあいさつをする」98.0%「がまんをする」82.7%となっており、目標値を大きく上回ったことから、評価はAとした。 |
| | 前回評価 A | 6月に行った調査は、「物を大切にする」65.4%、「コミュニケーションをとる」69.2%、「返事やあいさつをする」84.6%、「がまんをする」50.0%となっており、それぞれの項目について目標値に達していないものがあった。 しかし、年度末に行った同様の調査では、「物を大切にする」84.6%、「コミュニケーションをとる」90.1%、「返事やあいさつをする」88.5%、「がまんをする」82.7%となっており、目標値を大きく上回ったことから、評価はAとした。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|---|
| | A | 前年度から引き続き年度末のアンケート調査では、すべての項目において、実績値が目標値を大きく上回っていることから、評価はAとする。 小学校1年生児童の目指すべき姿を教員が理解できており、その姿に向かって指導できているように思う。今後は、幼稚園・保育園との連携を一層進め、小学校入学までに身につけておきたい事項について共通理解を図れるよう、対策を講じてほしい。 |
| | 前回評価 A | 平成30年度より1学期と年度末の年2回調査を行っており、年度末の調査では、すべての項目において、実績値が目標値を大きく上回っていることから、評価はAとする。 年度末に調査を行うようにしたことで、児童の1年間の成長を見ることができ、学校生活の中での教員の指導の成果を感じられ、高く評価できる。 今後も引き続き、学校が中心となって、家庭と連携しながら、児童の成長を育んでほしい。 |

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(2) 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|---|---|---|--------------------|
| <p>全国学力・学習状況調査の質問紙調査において「将来の夢や目標を持っている」という質問に「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合。</p> <p>一人ひとりを確実に伸ばす教育を推進することが、将来の夢や目標を描ける児童生徒が増えることにつながることから、この指標を設定した。</p> | <p>一人ひとりを確実に伸ばす教育を推進することにより、全国トップレベルの水準になることをめざして、この目標値を設定した。</p> | <p>小学校6年生 88.0%</p> <p>中学校3年生 70.6%</p> | <p>小学校6年生 90%</p> <p>中学校3年生 80%</p> | 30 |

平成31年（令和元年）度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | H31.4.1～R2.3.31 |
| ②実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問、要請訪問、市教職員研修において、特別活動、総合的な学習の時間、ライフスキルかわぐちの実施など、進路・キャリア教育について教員へ指導の充実を図るよう指導・助言をした。 ・徳力向上推進委員、ライフスキル教育推進委員の指導資料を活用したり、各校1名参加の研究授業を開催したりして、児童生徒に適切な指導を行えるように周知した。 ・川口の元気 夢わーく体験事業では、市内全中学校(26校)において、1年生または2年生が、市内の事業所・施設等で、3日間の社会体験活動(職場体験活動、福祉体験活動)を行った。 |
| ③実施結果 | <p>指標としている全国学力・学習状況調査の結果(平成31年4月実施の調査結果)において、質問事項「将来の夢や目標を持っていますか」では、小学校83.0%、中学校73.0%であった。</p> |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|---|
| ①実施時期 | 令和2年度の実施はなし |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動や総合的な学習の時間、ライフスキル教育の指導について、学校訪問、要請訪問、教職員研修において実践例を交えた具体的な指導・助言を行う。小学校においては、児童一人ひとりの望ましい勤労観・職業観を育てる視点、中学校においては、生徒が自ら生き方を考え、主体的に進路選択できるような指導方法について指導助言を行う。 ・課題研究委員会を中心として先進的な研究を一層進め、市内に積極的に広めていく。その際、将来の夢に関わる指導(キャリア教育)をどの教科・領域等で行うか、年間計画に位置づける等の視点も入れていく。 |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 小学校6年生 88.0% 中学校3年生 72.0% | 小学校6年生 88.5% 中学校3年生 74.0% | 小学校6年生 89.0% 中学校3年生 76.0% | 小学校6年生 89.5% 中学校3年生 78.0% | 小学校6年生 90% 中学校3年生 80% |
| | 小学校6年生 86.2% 中学校3年生 73.9% | 小学校6年生 85.5% 中学校3年生 72.6% | 小学校6年生 85.8% 中学校3年生 72.7% | 小学校6年生 83.0% 中学校3年生 73.0% | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|--|
| | B | 全国学力・学習状況調査（平成31年4月実施の調査結果）より、将来の夢や目標を持っているかを問う質問事項において、小学校では、目標値89.5%に対して実績値83.0%とやや下回り、中学校においても目標値78.0%に対して実績値73.0%とやや下回る結果となった。前年度と比べ、中学校においては若干実績値が向上しているものの、小学校においてはやや実績値が減少していたが、目標値を概ね達成しているところから評価はBとした。 |
| | 前回評価 | 全国学力・学習状況調査（平成30年4月実施の調査結果）より、将来の夢や目標を持っているかを問う質問事項において、小学校では、目標値89.0%に対して実績値85.8%と下回り、中学校においては目標値76.0%に対して実績値72.7%と若干下回った。しかしながら、小学校・中学校ともに平成29年度に比べ実績値が若干であるが向上していることから、評価はBとした。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|---|
| | B | 実績値は目標値に達していないが、目標値との差はわずかとなっていることから、概ね達成できていると考え、評価はBとする。 平成28年度以降、実績値は横ばいか若干下がっているため、目標値を達成するためには大幅な計画の変更が必要と思われる。特に中学生は小学生と比べ、より現実的な考え方をするようになって考えられる。今後は中学生が夢や目標を持てるようなプログラムにするとともに、新たな夢や目標を再設定できるような指導方法についても検討してほしい。 |
| | 前回評価 | 小・中学生ともに実績値は目標値に達していないが、平成29年度に比べ上昇し、目標値との差はわずかとなっていることから、評価はBとする。 今後は、児童生徒が将来の夢や目標を持てるよう、現在実践している“主体的に考え、学べるような仕組みづくり”を、学校訪問や研修など、教員への指導・助言を通して市内各学校に浸透させていくことに努めてほしい。 |

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(3) 埼玉県学力・学習状況調査において平成27年度の 小学校4年生が埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|--|--|-------------------|--------------------|
| <p>埼玉県学力・学習状況調査において平成27年度の小学校4年生が埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合（国語、算数）。</p> <p>経年変化を見ることで、本市の学力を測るため、この指標を設定した。</p> | <p>本市の平成27年度の小学校4年生が、埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合は、国語では、66.7%、算数では、58.3%である。</p> <p>学力向上へ向けた取り組みを推進することで、毎年この割合を伸ばしていくことをめざして、目標値を設定した。</p> | <p>小学校4年生 (平成27年度) 国語66.7% 算数58.3%</p> | <p>毎年前年度を上回る。</p> | <p>32</p> |

平成31年（令和元年）度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | H31.4.1～R2.3.31 |
| ②実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> 各学校において学力向上に関する児童生徒の実態把握に基づいて、学力向上のPDCAサイクルの確立に向け取り組んだ。（市立学校長会議での周知及び指導、学校訪問での指導） 各教員研修での周知と指導（中堅教諭研修会における学力向上研修の実施） 学力向上推進事業として漢字チャレンジ検定の実施 放課後や長期休業中（サマースクール）を活用した補充学習の実施 |
| ③実施結果 | <p>平成31年4月に実施した埼玉県学力・学習状況調査において、平成31年度の中学校2年生の調査結果で埼玉県平均正答率を上回った項目は、国語では30項目中13項目あり、43.3%が上回った。数学では、32項目中8項目あり、25.0%が上回った。学力の伸びは、国語1、数学3で国語は県同等、数学は県を1ポイント上回った。</p> |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|---|
| ①実施時期 | R2.4.1～R3.3.31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | <p>令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症による休校措置の影響で、指標となる埼玉県学力・学習状況調査の実施時期が変更になったり、参加市町村が減少するなど、その実施の公平性や継続性、調査の信用性等が維持できない状況にある。令和2年度は、教育課程の確実な実施について重点的に取り組む。</p> <p>なお、令和3年度以降は、従来通り以下の取組みを継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校における学力向上検証サイクルの確立と確実な実施 学校訪問時の指導の徹底 学力調査に向けた学習のまとめの確実な実施（県及び市作成の補充プリントの活用） 学力向上にむけた研修の充実 市内研究委嘱校の取組の周知 |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|--|--|--|--|--|---------------------------------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 前年度の数値 国語66.7% 算数58.3% を上回る 【学力の伸び】 県平均以上 | 前年度の数値 国語76.6% 算数40.6% を上回る 【学力の伸び】 県平均以上 | 前年度の数値 国語60.0% 算数31.3% を上回る 【学力の伸び】 県平均以上 | 前年度の数値 国語43.3% 数学12.5% を上回る 【学力の伸び】 県平均以上 | 毎年前年度を 上回る 【学力の伸び】 県平均以上 |
| ※ 指標の追加について 調査の性質から、当初 の指標にはない【学力の 伸び】を指標に追加した もの。 新たな目標値： 【学力の伸び】が県平均 を上回ることを目標値と する。 ()内は新たな目標値 | 国語76.6% 算数40.6% 【学力の伸び】 国語 4 算数 3 | 国語60.0% 算数31.3% 【学力の伸び】 国語 2 算数 1 | 国語43.3% 数学12.5% 【学力の伸び】 国語 1 数学 1 | 国語43.3% 数学25.0% 【学力の伸び】 国語 1 数学 3 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|--|
| | B | <p>埼玉県学力・学習状況調査において、平成31年度の中学校2年生生徒の調査結果で、指標に対しては、国語は前年度同等、数学は前年度を大きく上回った。また、学力の伸びは、数学が県を1ポイント上回るなど大きな向上傾向が見られた。</p> <p>平均正答率を比較すると、国語で0.1ポイント、数学で0.6ポイント下回るもののほぼ県同等の学力と捉えられる。</p> <p>前年度より指標が向上している背景には、中学校での指導に生徒も慣れ、各学校の学力向上策が効果的に行われていると考える。</p> <p>指標が前年度より改善傾向が見られたことから、評価はBとする。</p> |
| | 前回評価 C | <p>指標としている埼玉県学力・学習状況調査において、平成30年度の中学校1年生生徒の調査結果で、国語・数学ともに設問ごと（項目数）に県平均正答率を上回るという目標値を大きく下回った。前年度からの伸びも両教科ともに県の伸びを下回る結果であった。</p> <p>平均正答率を比較すると、国語で0.1ポイント、数学で1.7ポイント下回るもののほぼ県同等の学力と捉えられる。</p> <p>指標が大きく下回っている背景には、小学校から中学校に対象校種が変更し、本市の受験事情や外国人生徒の増加等があるものと考えられる。</p> <p>しかし、指標が前年度同様大きく下回っていることから、評価はCとする。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|--|
| | B | <p>「国語の正答率」は前年度同等、「数学の正答率」は前年度の実績値を上回っているものの、数値としては改善したと言い切れないため、評価はBとする。</p> <p>経年変化をみると、平成30年度、中学校に進学してからの数値が低く推移している傾向にある。優秀な児童が私立中学校に進学するケースもあると思うが、それだけが理由なのかを分析し、対策を考えてほしい。</p> |
| | 前回評価 C | <p>「国語・算数の正答率」及び「学力の伸び」ともに前年度の実績値を大きく下回り、目標を達成できていないことから、評価はCとする。</p> <p>各学校において、学力向上に関する児童生徒の実態把握をし、学力向上のPDCAサイクルの確立に取り組み、小学校において正答率が県平均より上回っている点は、評価できる。</p> <p>今後は、その取り組みが結果として表れることを期待したい。</p> |

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(4) 中学生・高校生海外派遣事業への応募者数

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|--|--------------------------|--------------------------|--------------------|
| 中学生・高校生を海外に派遣したり、外国の生徒の受入れを行ったりすることにより豊かな国際感覚と日本人としての自覚と責任を身に付け、グローバル社会に貢献できる人材を育成することが大切であることから、この指標を設定した。 | グローバル社会で活躍するには、まず世界に目を向けることが原点であることから、中学生・高校生海外派遣事業への応募者を現状から10パーセントの増加をめざして、この目標値を設定した。 | 中学生 77人 高校生 42人 | 中学生 85人 高校生 46人 | 34 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

- ①実施時期 H31.4月～R1.8月
- ②実施内容
 応募受付を4月1日～12日に実施した。その後、一次試験を4月21日、2次試験(中学生)を5月19日、(高校生)5月12日に実施した。中学校、高校とも選考委員会を経て派遣生を決定し、6月から事前研修会を中高とも6回実施した。(3回目以降はALTを派遣し、語学研修を中心に実施)高校生の保護者説明会を6月25日に、中学生の保護者説明会を翌26日に行った。市長表敬訪問及び出発式を7月18日に、帰国報告会を9月2日に行った。中学生の派遣期間は、7月24日～8月2日までの10日間、高校生は8月1日～8月16日までの16日間である。派遣生は、報告書を作成し、11月に市内の各学校へ配布した。
- ③実施結果
 中学生84人(市内77名、私立・国立7名)、高校生53人(市立7名、私立・県立・国立46名)の応募があった。1次選考は、教育研究所にて作文審査を、2次選考も同じ会場にて面接試験(個人・集団)を実施した。最終的に、中学生18名をオーストラリアへ、高校生15名をカナダへ派遣した。

令和2年度以降の取り組み

- ①実施時期 令和2年度の実施はなし
- ②見直し等が必要な事項、また見直した事項
 令和2年度より、高校生の派遣先をこれまでのカナダ・バンクーバー市からアメリカ・フィンドレー市に変更する。これは、川口市がオハイオ州フィンドレー市と教育分野で友好都市となったことによるものである。英語の学習だけでなく、現地の高校生や地元の方々と交流を積極的に行なっていく。このような事業内容が分かるように、報告書を各学校へ一律3部配布しているが、大規模校にはクラス数に応じて配布部数を増やし、保護者や生徒に対して本事業の周知を行っていく。募集要項・ポスターの配布は、中学生には1年生の3学期に1学年英語科担当者を通じて周知徹底を図る。特に高校生に関しては、川口市立高等学校への周知を促進し、応募数を増やしていくように努める。

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 中学生 79人 高校生 43人 | 中学生 81人 高校生 44人 | 中学生 82人 高校生 45人 | 中学生 83人 高校生 45人 | 中学生 85人 高校生 46人 |
| | 中学生 72人 高校生 66人 | 中学生 99人 高校生 58人 | 中学生 78人 高校生 59人 | 中学生 84人 高校生 53人 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|--|
| | A | 中学生の応募数は前年度より6名増加、高校生は6名減少したが、目標値を達成したことから評価はAとする。学校への募集要項・ポスターの配布等の準備は前年度と同じ時期に行った。また、支所や公民館等への周知も同じように行ったが、高校生の応募数は減少した。高校生への案内は、川口市立高校への募集要項・ポスターの配布数を増やし、前年度中（対象生徒が1年次）に各クラスでの周知徹底を依頼する。また、川口市立高校以外の高校生に対しては、川口市ホームページ・広報誌への掲載により、応募数を全体的に増やせるよう努めていきたい。 |
| | 前回評価 B | 中学生に関しては前年より21名減少した。高校生は前年度とほぼ同数の応募があった。学校への募集要項、ポスターの配布等の準備は前年度と同じ時期に行った。また、支所や公民館等への周知も同じように行ったが、中学生の応募数は減少した。各中学校への配布ポスター数を増やしたり、前年度中（対象生徒が1年次）に各クラスでの周知を徹底するなど、応募数を全体的に増やせるよう努めていきたい。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|--|
| | A | 応募者数の実績値は、中学生・高校生ともに目標値を達成できていることから、評価はAとする。 高校生の応募総数が53人と目標を大きく上回っているが、川口市立高校の応募者数が7人というのは少ないように思える。川口市のリーディング校として、海外派遣事業への応募者数が増えるような取り組みを考えてほしい。 |
| | 前回評価 B | 海外派遣事業への応募者数の実績値は、中学生は目標値を若干下回ったが、高校生は目標値を上回っており、目標は概ね達成されていることから、評価はBとする。 応募者数を増やすには、学校や市の施設へポスター掲示をする他に、学校経由で対象学年の生徒全員にチラシを配付するなど、多くの人の目に留まるような周知方法について検討してほしい。 |

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

| 指標(5) 特別支援学級設置校数 | | | | |
|---|--|--------------------------|---|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| <p>国や県のインクルーシブ教育システム構築の政策のひとつに、「多様な学びの場」の充実が挙げられている。特別な支援を必要とする児童生徒が地元の小・中学校で学ぶ環境をつくるためにも、特別支援学級の設置促進は重要であることからこの指標を選定した。</p> | <p>川口市は拠点校方式により、特別な支援を必要とする児童生徒が、課題克服に向けて少人数で効果的に学ぶことをめざしている。 インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育を推進するためにも設置率50%をめざして、今後も適正規模、適正配置をめざし計画的に設置を進めていく。</p> | <p>小学校15校 中学校11校</p> | <p>小学校26校 中学校13校</p> <p>〔 小学校22校 中学校13校 〕</p> | <p>36</p> |

平成31年（令和元年）度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | H31. 4. 1～R2. 3. 31 |
| ②実施内容 | <p>市内全体において、対象となる児童生徒数の推移を適切に把握しながら、学務課、教育総務課等、関係他課との連携を図り、特別支援学級の配置を計画的に行った。該当の小学校長から聞き取りや、適宜学校訪問を行い、特別支援学級の設置に向けた施設・設備面や教育経営面についての配慮事項について指導を行い、円滑な設置に努めた。</p> |
| ③実施結果 | <p>小学校2校（戸塚小学校、戸塚綾瀬小学校）に特別支援学級を設置することができた。特別支援学級の設置校は、小学校21校、中学校12校となり、設置率は、小学校40%、中学校は46%となった。</p> |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|---|
| ①実施時期 | R2. 4. 1～R3. 3. 31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | <p>通級指導教室の設置について、これまで申請に応じて配当される加配定数から、学級数に応じてきまる基礎定数化と変更になった。そこで、通学区の比較的広いところから、積極的に特別支援学級の設置を進めていく。</p> |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|---|------------------|------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 小学校17校 中学校12校 | 小学校19校 中学校12校 | 小学校20校 中学校13校 | 小学校23校 中学校13校 | 小学校26校 中学校13校 |
| ※ 目標値の再設定について 設置率50%を目指す 目標年度の変更(当初の 令和2年度から令和5年度 に変更)に伴い目標 値を再設定するもの。 ()内は新たな目標値 | | | (小学校19校 中学校12校) | (小学校21校 中学校12校) | (小学校22校 中学校13校) |
| | 小学校16校 中学校11校 | 小学校17校 中学校12校 | 小学校19校 中学校12校 | 小学校21校 中学校12校 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|--|
| | A | 新たに小学校2校に特別支援学級を設置し、再設定した目標値を達成することができた。今後も引き続き、小集団での活動機会を確保し、対象となる児童生徒数の推移や通学距離の適正化を勘案しながら設置への取り組みを進めていく。 |
| | 前回評価 A | 新たに小学校2校に特別支援学級を設置し、再設定した目標値を達成することができた。今後も引き続き、設置への取り組みを進めていく。 昨年度に、設置率50% (小学校26校、中学校13校) の目標年度を令和5年度とした。中学校においては、令和2年度に目標値の達成を目指す。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|---|
| | A | 特別支援学級設置校数の実績値は、小学校が2校増加し、目標値に達していることから、評価はAとする。 特別支援学級は設置する校区や施設面での課題も多く考えられるが、計画通りに進めている点について評価できる。川口市の設置校数の割合は、県内の他の中核市よりも少ないが、通級指導と併せて地域にあった対応を重視している点について理解できた。今後の設置に関しては、教室の確保や教職員の配置等に配慮するとともに、研修など教職員の指導の充実にも努めてほしい。 |
| | 前回評価 A | 特別支援学級設置校数の実績値は、小学校が2校増加し、目標値に達している。特別支援学級の設置率50%に達するという目標に向け、計画通り整備が進んでいることから、評価はAとする。 特別支援学級の整備を進めていく中では、設置するのみではなく、教員研修の充実や教員の配置などの課題にも十分配慮しながら、適切な整備に努めてほしい。 |

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

| 指標(6) 全国学力・学習状況調査の質問紙のうち、自尊感情、規範意識を示す割合 | | | | |
|--|--|--|--|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| <p>全国学力・学習状況調査で実施している質問紙の中の「自分には、よいところがあると思いますか」「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合。</p> <p>自尊感情、規範意識を高めることが、豊かな心を育むことにつながることから、この指標を設定した。</p> | <p>2項目ともに、市内平均は、県平均、全国平均に及ばない現状である。</p> <p>全国平均より高い数値となっている県平均を基準とし、県平均を上回る目標値とした。</p> | <p>「自分には、よいところがあると思いますか」</p> <p>小学校 74% 中学校 64%</p> <p>「学校のきまり(規則)を守っていますか」</p> <p>小学校 90.2% 中学校 91.5%</p> | <p>「自分には、よいところがあると思いますか」</p> <p>小学校 80% 中学校 70%</p> <p>「学校のきまり(規則)を守っていますか」</p> <p>小学校 95% 中学校 95%</p> | 38 |

| 平成31年(令和元年)度の実施状況 | |
|-------------------|---|
| ①実施時期 | H31.4.1~R2.3.31 |
| ②実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問、要請訪問、市教職員研修において、道徳教育、特別活動、ライフスキルかわぐち、読書活動など、豊かな心の育成についての教員の指導力向上を図った。 ・より各学校の道徳教育を充実し豊かな心の育成を図るため、道徳に係る研修の対象者、内容、回数改善を図り実施した。既存の道徳教育推進教師を対象とした道徳教育推進研修会(2回)の他に、若手教員を対象とし授業力の向上を図るための道徳授業研修会(2回)を実施した。 ・「川口市道徳の日(10月9日)」の前後に各小・中学校で道徳の授業公開などを行うとともに、市役所に各校の取り組みを掲示し広く市民に発信し、道徳教育の充実を図った。 |
| ③実施結果 | <p>指標としている全国学力・学習状況調査の結果(平成31年4月実施の調査結果)において、質問事項「自分にはよいところがあると思いますか」(自尊感情)では小学校78.2%、中学校72.0%、質問事項「学校のきまり(規則)を守っていますか」(規範意識)では小学校92.9%、中学校95.8%であった。</p> |

| 令和2年度以降の取り組み | |
|----------------------|--|
| ①実施時期 | 令和2年度の実施はなし |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力向上を目指して、昨年度、冊子「川口の道徳～明確な指導観に基づいた授業の創造～」を学級担任数分配布した。今年度は、学校訪問や要請訪問、各研修会において、冊子の活用を図っていく。 ・中堅教諭等資質向上研修において、研修教員全員が道徳を研修する機会を設け実施することとなっている。 ・平成31年(令和元年)度実施した課題研究員による研究成果を発信し、市内小・中学校の道徳、特別活動の指導の充実を図る。 |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|---|---|---|---|---|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 75% 中学校 66% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 76% 中学校 67% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 77% 中学校 68% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 78% 中学校 69% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 80% 中学校 70% |
| | 「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 92% 中学校 92% | 「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 93% 中学校 93% | 「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 94% 中学校 94% | 「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 95% 中学校 95% | 「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 95% 中学校 95% |
| | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 72.4% 中学校 66.1% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 76.5% 中学校 70.5% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 78.3% 中学校 72.0% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 78.2% 中学校 72.0% | |
| | 「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 93.0% 中学校 95.4% | 「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 92.3% 中学校 94.8% | 「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 91.4% 中学校 94.9% | 「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 92.9% 中学校 95.8% | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|--|
| | B | 全国学力・学習状況調査（平成31年4月実施の調査結果）より、自尊感情を問う質問事項において、小学校では、目標値78%に対して実績値78.2%、中学校では、目標値69%に対して実績値72.0%と上回った。規範意識を問う質問事項において、小学校では、目標値95%に対して実績値92.9%と下回ったが、前年度に比べ+1.5%上昇した。中学校では、目標値95%に対して実績値95.8%と若干上回る値となった。以上のことから、自尊感情、規範意識とも概ね目標を達成したと言える。 |
| | 前回評価 | 全国学力・学習状況調査（平成30年4月実施の調査結果）より、自尊感情を問う質問事項において、小学校では、目標値77%に対して実績値78.3%（前年度比+1.8%）と上回った。中学校では、目標値68%に対して実績値72%（前年度比+1.5%）と上回った。規範意識を問う質問事項において、小学校では、目標値94%に対して実績値91.4%（前年度比-0.9%）と若干下回ったが、中学校では、目標値94%に対して実績値94.9%（前年度比+0.1%）と若干上回る値となった。以上のことから、自尊感情、規範意識とも概ね目標を達成したと言える。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|---|
| | B | 自尊感情の項目の実績値は、小・中学校ともに平成30年度と同等で、目標値を上回っている。規範意識の項目の実績値は、平成30年度より上昇し、小学校では目標値を下回っているものの、中学校では上回っている。このことから、目標は概ね達成しており、評価はBとする。 小学生の規範行動は目標を達成することが可能と考えられるため、児童一人一人の意識を高めるための働きかけを行ってほしい。 |
| | 前回評価 | 自尊感情の項目の実績値は、小・中学校ともに平成29年度より上昇し、目標値を上回っている。規範意識の項目の実績値は、小学校では目標値を下回っているが、中学校では上回っている。このことから、目標は概ね達成しており、評価はBとする。 規範意識を高めるためには、上手な“しかり方”など、指導力の向上を図ることが重要であり、教員は、児童生徒に規範意識が身につけられるような指導を学校生活の中で常に意識しながら取り組んでほしい。 |

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(7) 人権感覚育成プログラムを校内研修で使用した割合

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|---|--------------------------|----------------------------|--------------------|
| <p>市内小・中学校で人権感覚育成プログラムを使用した校内研修を実施した学校の割合。</p> <p>人権課題を解決するための基盤となる人権感覚を育成するため、指導内容・指導方法の改善を図る必要があることから、この指標を設定した。</p> | <p>人権感覚育成プログラムを実践した学校の割合は市内小・中学校ともに100%であるが、人権課題を解決するための基盤となる人権感覚を育成するためには、人権感覚育成プログラムの実施校数100%の維持とともに、実践の質の向上が必要である。このことから、市内すべての小・中学校における人権感覚育成プログラムを使用した校内研修の実施を目標とした。</p> | <p>小学校71% 中学校61%</p> | <p>小学校100% 中学校100%</p> | 42 |

平成31年（令和元年）度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | H31. 4. 1～R2. 3. 31 |
| ②実施内容 | <p>「人権感覚育成プログラム」が校内研修で100%活用されるよう、「人権教育主任研修会」や「人権教育理解研修会」、「人権教育管理職研修会」でその趣旨を繰り返し伝達するとともに、校長会でも周知した。また、「人権感覚育成プログラム」を活用したか調査を行い、未実施の学校には電話にて確認を行った。</p> |
| ③実施結果 | <p>「令和元年度学校における人権教育の実践状況に関する調査」では、小学校、中学校ともに「人権感覚育成プログラム」を校内研修で活用した割合が100%となった。</p> |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|--|
| ①実施時期 | R2. 4. 1～R3. 3. 31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | <p>昨年度と同様に人権教育に係る研修及び校長会にて、校内研修の中で「人権感覚育成プログラム」を活用するよう伝達するとともに、実施の有無を調査することで、令和2年度の目標値100%を維持できるようにする。</p> |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 小学校80% 中学校70% | 小学校90% 中学校80% | 小学校100% 中学校 90% | 小学校100% 中学校100% | 小学校100% 中学校100% |
| | 小学校96% 中学校77% | 小学校100% 中学校100% | 小学校88% 中学校77% | 小学校100% 中学校100% | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|---|
| | A | 人権感覚育成プログラムを校内研修で使用した割合が、小学校、中学校ともに100%で平成31年度の目標値を達成することができたため。 |
| | 前回評価 C | 人権感覚育成プログラムの活用については、各学校で年間指導計画に位置づけられ活用されている。また、人権教育主任研修会等の各研修会でも取り上げていたが、指標である校内研修での使用に対する周知が徹底できなかったため、昨年度より数値が低下してしまった。数値が29年度より低下してしまったことから評価結果をCとした。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|--|
| | A | 小・中学校ともに、実績値は100%で、目標値に達しているところから、評価はAとする。 現在はプログラム使用時期を各学校の判断に委ねている。目標達成を継続するために、今後は使用する時期を定め、使用したかどうかの確認時期を決定することにより、全学校とも100%を維持できると思われるため、仕組みについて検討してほしい。 |
| | 前回評価 C | 小・中学校ともに、実績値は平成29年度より下がっており、目標値に達していないことから、評価はCとする。 人権感覚育成プログラムを校内研修で活用することにより、教員の指導内容や指導方法の共通理解を図れることから、必ず活用するというを管理職を通して各学校に周知徹底してほしい。 |

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(8) 小児生活習慣病予防検診対象者の割合

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|------------------|----------------|-------------|--------------------|
| <p>定期健康診断の結果、肥満度30%以上の児童生徒を、小児生活習慣病予防検診の対象者としている。</p> <p>糖尿病や高血圧など、生活習慣病の低年齢化が進むその要因である肥満の解消は大きな課題である。</p> <p>生涯を健康に過ごすことができるよう、望ましい生活習慣を身に付け、検診対象の割合を低減していくことが重要である。</p> | 平成26年度実績の3割減とした。 | 5.09% | 3.50% | 44 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

| | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|-----------------------|-------------|-------|-----------------------|-------------|-------|-------------------------|-------------|-------|
| ①実施時期 | H31.4.1~R2.3.31 | | | | | | | | | |
| ②実施内容 | <p>定期健康診断における身体測定の結果から、肥満傾向にある児童生徒に対し、生活習慣の改善など指導を行う。</p> <p>また、肥満度30%以上の小学校4年生児童及び中学校1年生生徒のうち希望者を対象に、血液検査・血圧測定・医師の相談等を行う「小児生活習慣病予防検診」を実施し、その結果に応じ、医師の管理や保健指導等の対応を図る。</p> | | | | | | | | | |
| ③実施結果 | <table border="0"> <tr> <td>・小学校4年生(肥満度30%以上/児童数)</td> <td>193人/5,034人</td> <td>3.83%</td> </tr> <tr> <td>・中学校1年生(肥満度30%以上/生徒数)</td> <td>225人/4,678人</td> <td>4.81%</td> </tr> <tr> <td>・小4・中1計(肥満度30%以上/児童生徒数)</td> <td>418人/9,712人</td> <td>4.30%</td> </tr> </table> <p>※過去検診対象者の経年推移(肥満度30%以上の割合 ()内は前年度比較増減)</p> <p>H28対象 小4 3.86% → 小5 4.27% (0.41) → 小6 4.78% (0.51) → 中1 4.81% (0.03) 中1 5.01% → 中2 3.58% (-1.43) → 中3 3.49% (-0.09) → 高1 データなし 全体 4.40% → 3.92% (-0.48) → 4.14% (0.22) → 4.81% (0.67)</p> <p>H29対象 小4 4.50% → 小5 4.21% (-0.29) → 小6 5.02% (0.81) 中1 4.50% → 中2 3.81% (-0.69) → 中3 4.14% (0.33) 全体 4.50% → 4.01% (-0.49) → 4.58% (0.57)</p> <p>H30対象 小4 4.14% → 小5 4.54% (0.40) 中1 5.05% → 中2 4.18% (-0.87) 全体 4.57% → 4.36% (-0.21)</p> | ・小学校4年生(肥満度30%以上/児童数) | 193人/5,034人 | 3.83% | ・中学校1年生(肥満度30%以上/生徒数) | 225人/4,678人 | 4.81% | ・小4・中1計(肥満度30%以上/児童生徒数) | 418人/9,712人 | 4.30% |
| ・小学校4年生(肥満度30%以上/児童数) | 193人/5,034人 | 3.83% | | | | | | | | |
| ・中学校1年生(肥満度30%以上/生徒数) | 225人/4,678人 | 4.81% | | | | | | | | |
| ・小4・中1計(肥満度30%以上/児童生徒数) | 418人/9,712人 | 4.30% | | | | | | | | |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|--|
| ①実施時期 | R2.4.1~R3.3.31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | <p>平成30年度に続き、小児生活習慣病予防検診実施にあたり、受付時間を授業等の影響の小さい日程、時間帯にて実施を図ろうとしたが、給食の提供回数確保のため、始業式、終業式を含めた検診日を設定することになった。そのため、昨年度と比較すると受診率がわずかながら減少した。引き続き受診しやすい日程、検診会場の検討を行っていく。</p> <p>対象者の経年推移は増減を繰り返しており、継続的な生活環境の改善に学校と保護者がさらに連携し取り組むことが重要である。</p> |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 4.50%以下 | 4.25%以下 | 4.00%以下 | 3.75%以下 | 3.50%以下 |
| | 4.40% | 4.50% | 4.57% | 4.30% | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|--|
| | B | <p>本指標の対象学年における肥満度30%以上の児童生徒の割合は、目標値3.75%以下を達成できなかったが、昨年度の数値を下回る結果となった。</p> <p>対象児童生徒に実施した小児生活習慣病予防検診では、小4児童114人、中1生徒72人が受診し、受診率はそれぞれ、59.07%、32.00%と前年度の64.25%、33.77%から全体では減少した。これは、検診の日程が終業式、始業式を含んでおり、昨年度と比較して受診をしにくい日程であったことが要因と考えられる。</p> <p>過去検診対象者の経年推移から、対象となった翌年度は改善がみられるものの、時間の経過とともに微増の結果となっている。</p> |
| | 前回評価 B | <p>本指標の対象学年における肥満度30%以上の児童生徒の割合は、目標値4.00%以下を達成できず、昨年度の数値を上回る結果となった。</p> <p>対象児童生徒に対し実施した小児生活習慣病予防検診では、小4児童133人、中1生徒76人が受診し、受診率はそれぞれ、64.25%、33.77%と前年度の58.64%、21.95%から向上した。これは、検診の受付時間を、授業に影響が小さい時間帯へ見直したことによる効果と考えられる。</p> <p>過去検診対象者の経年推移から、対象となった翌年度は改善がみられるものの、時間の経過とともに従前の状態に戻る傾向が伺える。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|--|
| | B | <p>実績値は平成28年度以降、過去の数値より減少しているが、目標値に達していないため評価はBとする。</p> <p>予防検診の対象者を減らすには、保護者への働きかけが重要であると思う。特に今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止による休校や外出自粛の影響で運動不足が懸念され、予防検診対象者が増えることも考えられるので、対策を考えてほしい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>目標は未達成であるが、小児生活習慣病予防検診の受診の時間帯を授業に影響が小さい時間帯へ見直すなど、前年度に指摘のあった点についても改善し、受診しやすい環境づくりに努めており、検診の受診率が上がっていることから、評価はBとする。</p> <p>今後は、肥満傾向にある児童生徒を減らせるよう、児童生徒や保護者の生活習慣改善への意識づけにも重点を置きながら、学校保健委員会等と連携し、学校と家庭が協力して取り組める体制を構築してほしい。</p> |

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

| 指標(9) 体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合 (小学校6年生、中学校3年生) | | | | |
|--|--|--------------------------------|--------------------------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| 各学校が実施している体力テストにおいて、全国平均を上回る項目数の割合。 客観的な基準により、各学校及び児童生徒一人ひとりに応じた課題解決への取り組みや体力向上の状況を示す数値であることから、この指標を選定した。 | 体力テスト男女合計16種目のうち、小学校6年生で8種目以上、中学校3年生で11種目以上の平均値が、全国平均を上回ることをめざして、この目標値を設定した。 | 小学校6年生 44% 中学校3年生 63% | 小学校6年生 45% 中学校3年生 65% | 46 |

| 平成31年(令和元年)度の実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------|---|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|----|--|--|--|--|--|--|--|--|-------|-------|--------|--------|--------|-------|------|---------|-------|---|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|------|---------|-------|---|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|----|--|--|--|--|-----|--|--|--|-------|-------|--------|--------|--------|------|------|---------|-------|---|-------|-------|-------|-------|------|------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|------|------|---------|-------|---|-------|-------|-------|-------|------|------|--------|-------|
| ①実施時期 | H31.4.1~R2.3.31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②実施内容 | <p>測定項目 男女それぞれ8種目 ①握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横跳び ⑤20mシャトルラン ⑥50m走 ⑦立ち幅跳び ⑧ボール投げ ※中学生は⑤「20mシャトルラン」については、「20mシャトルラン」か「持久走(男子1500m 女子1000m)」のどちらかを選択(川口市の中学校は全校で持久走を選択している)。 ・各学校において、課題となる種目を設定し、解決に向けての取り組みを実施した。 ・川口市体力向上推進委員会において、児童生徒の体力の分析・各学校の取り組みの紹介などをまとめた冊子を作成・配布し、その内容を啓発することを通して、各学校の体育授業や体育的活動の取組の充実へとつなげた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③実施結果 | <p>※全国平均値と川口市平均値との比較 市平均に○印がついている種目は、全国平均を上回った種目 →小学校9/16種目、中学校9/16種目全国平均を上回った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>握力</th> <th>上体起 こし</th> <th>長座体 前屈</th> <th>反復横 跳び</th> <th>20mシ ャトル</th> <th>50m走</th> <th>立ち幅 跳び</th> <th>ボール 投げ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>【男子】市</td> <td>19.70</td> <td>23.05○</td> <td>38.51○</td> <td>47.41○</td> <td>60.93</td> <td>8"91</td> <td>168.12○</td> <td>23.66</td> </tr> <tr> <td>全</td> <td>19.70</td> <td>22.98</td> <td>35.49</td> <td>47.02</td> <td>65.49</td> <td>8"78</td> <td>167.08</td> <td>27.86</td> </tr> <tr> <td>【女子】市</td> <td>19.74○</td> <td>21.75○</td> <td>44.70○</td> <td>45.28○</td> <td>50.27</td> <td>9"12</td> <td>162.28○</td> <td>14.97</td> </tr> <tr> <td>全</td> <td>19.37</td> <td>21.10</td> <td>40.71</td> <td>44.63</td> <td>51.19</td> <td>9"12</td> <td>158.54</td> <td>16.80</td> </tr> <tr> <td>中3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>持久走</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>【男子】市</td> <td>34.39</td> <td>33.25○</td> <td>52.67○</td> <td>57.32○</td> <td>6'08</td> <td>7"60</td> <td>215.62○</td> <td>23.75</td> </tr> <tr> <td>全</td> <td>34.81</td> <td>30.35</td> <td>47.89</td> <td>56.85</td> <td>6'02</td> <td>7"42</td> <td>212.59</td> <td>24.26</td> </tr> <tr> <td>【女子】市</td> <td>26.44○</td> <td>28.95○</td> <td>54.11○</td> <td>50.78○</td> <td>4'40</td> <td>8"63</td> <td>180.43○</td> <td>14.62</td> </tr> <tr> <td>全</td> <td>25.71</td> <td>25.21</td> <td>48.66</td> <td>49.51</td> <td>4'38</td> <td>8"53</td> <td>177.11</td> <td>14.65</td> </tr> </tbody> </table> | | 握力 | 上体起 こし | 長座体 前屈 | 反復横 跳び | 20mシ ャトル | 50m走 | 立ち幅 跳び | ボール 投げ | 小6 | | | | | | | | | 【男子】市 | 19.70 | 23.05○ | 38.51○ | 47.41○ | 60.93 | 8"91 | 168.12○ | 23.66 | 全 | 19.70 | 22.98 | 35.49 | 47.02 | 65.49 | 8"78 | 167.08 | 27.86 | 【女子】市 | 19.74○ | 21.75○ | 44.70○ | 45.28○ | 50.27 | 9"12 | 162.28○ | 14.97 | 全 | 19.37 | 21.10 | 40.71 | 44.63 | 51.19 | 9"12 | 158.54 | 16.80 | 中3 | | | | | 持久走 | | | | 【男子】市 | 34.39 | 33.25○ | 52.67○ | 57.32○ | 6'08 | 7"60 | 215.62○ | 23.75 | 全 | 34.81 | 30.35 | 47.89 | 56.85 | 6'02 | 7"42 | 212.59 | 24.26 | 【女子】市 | 26.44○ | 28.95○ | 54.11○ | 50.78○ | 4'40 | 8"63 | 180.43○ | 14.62 | 全 | 25.71 | 25.21 | 48.66 | 49.51 | 4'38 | 8"53 | 177.11 | 14.65 |
| | 握力 | 上体起 こし | 長座体 前屈 | 反復横 跳び | 20mシ ャトル | 50m走 | 立ち幅 跳び | ボール 投げ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【男子】市 | 19.70 | 23.05○ | 38.51○ | 47.41○ | 60.93 | 8"91 | 168.12○ | 23.66 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全 | 19.70 | 22.98 | 35.49 | 47.02 | 65.49 | 8"78 | 167.08 | 27.86 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【女子】市 | 19.74○ | 21.75○ | 44.70○ | 45.28○ | 50.27 | 9"12 | 162.28○ | 14.97 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全 | 19.37 | 21.10 | 40.71 | 44.63 | 51.19 | 9"12 | 158.54 | 16.80 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中3 | | | | | 持久走 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【男子】市 | 34.39 | 33.25○ | 52.67○ | 57.32○ | 6'08 | 7"60 | 215.62○ | 23.75 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全 | 34.81 | 30.35 | 47.89 | 56.85 | 6'02 | 7"42 | 212.59 | 24.26 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【女子】市 | 26.44○ | 28.95○ | 54.11○ | 50.78○ | 4'40 | 8"63 | 180.43○ | 14.62 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全 | 25.71 | 25.21 | 48.66 | 49.51 | 4'38 | 8"53 | 177.11 | 14.65 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の取り組み | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ①実施時期 | 令和2年度の実施はなし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | 令和2年度新体力テストの実施はないが、各学校が継続的・計画的に体力向上に取り組んでいく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 小学校6年生 45% 中学校3年生 65% | 小学校6年生 45% 中学校3年生 65% | 小学校6年生 45% 中学校3年生 65% | 小学校6年生 45% 中学校3年生 65% | 小学校6年生 45% 中学校3年生 65% |
| | 小学校6年生 50% 中学校3年生 75% | 小学校6年生 56% 中学校3年生 75% | 小学校6年生 63% 中学校3年生 81% | 小学校6年生 56% 中学校3年生 56% | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|--|
| | B | <p>小学校では、男子は、上体起こし・長座体前屈・反復横とび・立ち幅跳びにおいて、女子は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・立ち幅跳びにおいて、全国平均値を上回ることができた。実績値としては、16種目中9種目が全国平均値を上回り、56%を達成することができた。</p> <p>中学校では、男子は、上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・立ち幅跳びにおいて、女子は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・立ち幅跳びにおいて、全国平均値を上回ることができた。実績値としては、16種目中9種目が全国平均値を上回り、56%を達成することができた。小学校は目標値を上回ることができたが、中学校は下回ったため、B評価とした。</p> |
| | 前回評価 A | <p>小学校では、男子は、上体起こし・長座体前屈・反復横とび・立ち幅跳びにおいて、女子は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・50m走・立ち幅跳びにおいて、全国平均値を上回ることができた。実績値としては、16種目中10種目が全国平均値を上回り、63%を達成することができた。</p> <p>中学校では、男子は、上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・立ち幅跳び・ボール投げにおいて、女子は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・持久走・50m走・立ち幅跳び・ボール投げとすべての種目で、全国平均値を上回ることができた。16種目中13種目が全国平均値を上回り、実績値は、81%を達成することができた。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|---|
| | B | <p>小学校については目標値を上回っているが、中学校は下回っているため、評価はBとする。</p> <p>体力テストの実施について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全校一律には行わず各学校の判断に任せていることについては致し方ないと思う。しかし、来年度指標を評価する上で実績が必要であると思うので、体力テストを実施する学校があれば、データの収集など把握に努めてほしい。</p> |
| | 前回評価 A | <p>小・中学校ともに、実績値は、平成29年度より上がっており、目標値を大きく上回っていることから、評価はAとする。</p> <p>実績値が年々上昇している状況は、教員の指導を始め、学校全体の体力向上に向けた取り組みの成果の表われであると捉え、高く評価できる。</p> <p>今後はさらに、体力テストの結果が高い学校の取り組みを他の学校に広く周知し、市内の児童生徒の体力向上につなげていくことを期待したい。</p> |

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(10) 高等学校卒業後、大学への進学者の割合

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|--|--|--------------------------|--------------------|
| <p>新市立高等学校の卒業生のうち、大学へ進学した生徒の割合。 新校は、大学への進学を強く推し進めていくことからこの指標を設定した。</p> | <p>現市立高等学校への入学者の進路希望先や保護者の願いが、大学進学であることから設定した。</p> | <p>川口総合高 42.4% 川口高 63.0% 県陽高 55.9% (H28.3)</p> | <p>新市立高等学校 80%以上</p> | <p>48</p> |

平成31年(令和元年)度の実施状況

①実施時期 H31.4.1～R2.3.31

②実施内容

- ・外国人講師を常駐させ、英語でのコミュニケーション能力の向上を図った。
- ・放課後自習室に大学生チューターを配置した。
- ・教員・生徒のICT活用能力の向上を図るため、ICT支援員を配置した。
- ・連携大学等の講師を招聘し受講機会を設けた。

③実施結果

令和2年3月 大学進学割合(大学進学者数/卒業生数)

| | | |
|---------|-------|-------------|
| 旧川口総合高校 | 39.6% | (63人/159人) |
| 旧川口高校 | 81.6% | (195人/239人) |
| 旧県陽高校 | 45.8% | (55人/120人) |
| 総計 | 60.4% | (313人/518人) |

令和2年度以降の取り組み

①実施時期 R2.4.1～R3.3.31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

新型コロナウイルス感染症の影響による休校期間については、生徒の学習保障のため、在宅学習支援の取り組みを実施した。

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|---------------------------------------|---------------------------------------|--|--|------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 前年度以上を目指す | 前年度以上を目指す | (新校開校) 前年度以上を目指す | 前年度以上を目指す | 新市立高等学校 80%以上 |
| | 川口総合高 43.2% 川口高 71.5% 県陽高 53.2% | 川口総合高 35.4% 川口高 74.0% 県陽高 49.7% | 旧川口総合高 45.8% 旧川口高 69.8% 旧県陽高 51.6% | 旧川口総合高 39.6% 旧川口高 81.6% 旧県陽高 45.8% | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|---|
| | B | <p>大学進学割合について、旧高校ごとに達成率に差があるが、学校全体としては、前年度以上の目標を達成した。また、国公立大学合格者数についても前年度の5人から18人に増加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体の大学進学割合 前年度57.7% → 平成31年（令和元年）度：60.4% |
| | 前回評価 C | <p>平成30年度の川口市立高等学校の開校に伴い、新校に入学した生徒を想定した指導を展開したことにより、旧市立3校に入学した生徒についても大学進学実績が若干高まった。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|--|
| | B | <p>大学への進学者の割合の実績値は、旧川口総合高校・旧県陽高校は平成30年度より下がっているが、旧川口高校は80%を上回っている。また、学校全体の大学進学割合も、平成30年度より上がっており、目標は概ね達成されていることから、評価はBとする。</p> <p>令和2年度は、新市立高等学校の入学者が初めて卒業するため、結果に期待している。大学進学者の割合80%以上という目標値は高いが、生徒が志望校に進学できるか等も含め、目標達成を目指し、学力向上に努めてほしい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>大学への進学者の割合の実績値は、旧川口高校のみ平成29年度より下がっているが、旧川口総合高校・旧県陽高校は上がっている。また、3校の総計の実績値も、平成29年度より上がっており、目標は概ね達成されていることから、評価はBとする。</p> <p>今後も引き続き、特色ある教育を通して、川口市立高校全体の進学率の向上に努めるとともに、川口市の小・中学校における学力向上を担うリーディング校としての役割を期待する。</p> |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(1) 教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|---|----------------|------------------------------------|--------------------|
| 採用2～3年次の若手教員数において教育研修生研修「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合。 経験豊富な教職員の大量退職期に伴う若手教員の増加により、一層の資質向上が必要であることから、この指標を設定した。 | 初任者研修修了者に対して、継続して研修の機会を確保し、各教科等における指導法や学級経営等の資質向上が必要である。このことから2年次～3年次の間に教育研修生研修「教育指導パワーアップ研修」対象者全員の受講をめざしてこの目標値を設定した。 | 0% | 100% ※平成30年度初任者のうち、受講修了者の割合 | 54 |

平成31年（令和元年）度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | 6月11日、7月18日、10月8日、10月30日、10月31日、12月18日、2月6日 |
| ②実施内容 | <p>第1回 6月11日 教育研究所 グループごとの研究のテーマ、方向性についての協議</p> <p>第2回 7月18日 教育研究所 研究協議 各研究グループの研究仮説・手立てを決める。</p> <p>第3回 会場各研究校研修（3会場） ①10月8日 前川小（佐々木教諭・体育） ②10月30日 本町小（本澤教諭・外国語） ③10月31日 岸川中（池上教諭・数学）</p> <p>第4回 12月18日 教育研究所 グループ協議 (1) 研究テーマにもとづいた個人の実践発表 (2) 研究のまとめに向けて準備 (3) プレゼン内容の検討</p> <p>第5回 2月6日 教育研究所 (1) グループごとのプレゼン発表 (2) 個人の振り返り</p> |
| ③実施結果 | <p>平成30年度初任者研修対象者120名のうち令和元年度パワーアップ研修の受講者は51名で43%の参加率であった。また、今年度の参加者の内訳は30年度初任者が51名、29年度10名、28年度5名であった。</p> <p>受講者へアンケートを実施したところ、「十分理解できた」が66人中38人（58%）「概ね理解できた」が26人（41%）「あまり満足できなかった」が1人（1%）という結果だった。</p> <p>受講者の感想でも、「他の学校の教員と日頃の指導法に対する悩みを交流することができた。」「研究テーマに向けてグループで協議することで学びが深まった。」「今後の教育活動に生かせることが見つかった」など、充実した研修となった。</p> |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|---|
| ①実施時期 | 10月～2月（全3回） |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため休校期間が延長されたことから、全5回を3回に短縮して行う。 教科によっては、人数にばらつきがあったため、どの教科も人数を含め、充実した研修になるよう研修内容、方法を見直す。 |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 60% | 70% | 80% | 90% | 100% |
| | 54% (57名/106名) | 66% (66名/100名) | 68% (68名/100名) | 43% (51名/120名) | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|---|
| | C | <p>平成30年度初任者研修対象者120名のうち令和元年度パワーアップ研修の受講者は51名で43%の参加率であった。また、今年度の参加者の内訳は30年度初任者が51名、29年度10名、28年度5名であった。</p> <p>目標には、達し得なかったが、満足度調査では、「十分満足できた」「概ね満足できた」を合わせると93%という値であったことからこの結果とした。</p> <p>なお、パワーアップ研修対象者は経験2年目～4年目のため、平成27年度初任者研修対象者は、経験5年目になるため本研修の対象外となる。</p> |
| | 前回評価 B | <p>平成27年度初任者研修対象者100名の内、パワーアップ研修対象者（経験2年目～4年目）となる28年度は57名、29年度は9名、30年度は2名が参加した。よってこの3年間で68%の参加率となる。目標値70%には達していないが、近い数値となっている。また、アンケート結果からも「十分満足できた」「概ね満足できた」を合わせると90%という満足度になっていることから、この評価結果とした。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|---|
| | B | <p>平成31年（令和元年）度から平成30年度初任者が対象者になることから、目標値を再設定すべきと考える。再設定された目標値を60%と仮定して評価すると、概ね達成できていると判断できるため、評価はBとする。</p> <p>現在の実施方法だと、すべての研修に参加する必要があるため、全5回のうち1回でも学校行事と重なると参加できなくなる可能性があり、3年間の研修で受講修了者100%を達成するのは難しいように思う。研修の仕組みを見直し、短期間で一定の効果を見込めるようなプログラムにするなど、受講しやすくなるよう工夫してほしい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>受講修了者の割合の実績値は平成29年度より上がっているが、目標値に達していないことから、評価はBとする。</p> <p>研修の対象者の中には、産休、育休等をとり研修に参加できない教員もいるため、100%の達成は難しいと思われるが、研修の受講は、教員の指導力向上につながるため、教員が研修に参加しやすい環境づくりを学校全体に推進してほしい。</p> |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(2) 児童生徒の交通事故発生件数

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|---|----------------------------|----------------|--------------------|
| 児童生徒の交通事故発生件数。 子どもたちの安心・安全の確保する教育を推進することが、危険予測・危険回避などの安全意識を身に付けられることから、この指標を設定した。 | 交通安全意識の徹底と啓発に取り組むことにより、交通事故0をめざして、この目標値を設定した。 | 小学校38件 中学校18件 高等学校2件 | 小・中・高等学校 0件 | 58 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

- ①実施時期 H31. 4. 1～R2. 3. 31
- ②実施内容
学校における発達段階に応じた安全教育、安全指導の一層の充実を図るとともに、効果のあった実践について紹介するなど教職員研修を充実し、児童生徒の交通事故発生件数ゼロを目指す。県の条例改正に伴い、通学時における自転車保険の加入の調査及び保険加入の義務化を周知していくよう促していく。
- ③実施結果
平成31年(令和元年)度1学期末の児童生徒の交通事故発生件数は、小学校25件、中学校14件、高等学校6件で、前年度より5件減少した。

令和2年度以降の取り組み

- ①実施時期 R2. 4. 1～R3. 3. 31
- ②見直し等が必要な事項、また見直した事項
学校における発達段階に応じた安全教育、安全指導の一層の充実を図るとともに、効果のあった実践について紹介するなど教職員研修を充実し、児童生徒の交通事故発生件数ゼロを目指す。また、前年度に引き続き通学時における自転車保険の加入の調査及び保険加入の義務化を周知していくと共に学校の学級活動(朝・帰)において交通安全指導を徹底していく。さらに、地域ぐるみでの見守りとしてスクールガードリーダーの取組みを研修会を通して強化していきたい。また、自転車による事故が増加していることから、市内中学校の自転車走行時のヘルメット着用のルールの見直しを行い、部活動・校外学習・登下校等の学校管理下における全ての教育活動において、自転車利用時のヘルメット着用を義務とするよう学校に周知していく。

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|-------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|----------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 小学校 38件以下 中学校 18件以下 高等学校 2件以下 | 小学校 28件以下 中学校 13件以下 高等学校 2件以下 | 小学校 18件以下 中学校 8件以下 高等学校 1件以下 | 小学校 8件以下 中学校 4件以下 高等学校 1件以下 | 小・中・高等学校 0件 |
| | 小学校 31件 中学校 10件 高等学校 3件 | 小学校 30件 中学校 9件 高等学校 3件 | 小学校 34件 中学校 14件 高等学校 2件 | 小学校 25件 中学校 14件 高等学校 6件 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|--|
| | C | 平成31年（令和元年）度の児童生徒の交通事故発生件数は、目標値に対して小学校は17件増、中学校は10件増、高等学校は5件増で、小学校・中学校・高等学校において目標を達成することができなかった。 |
| | 前回評価 | 平成30年度の児童生徒の交通事故発生件数は、目標値に対して小学校は16件増、中学校は6件増、高等学校は1件増で、小学校・中学校・高等学校において目標に達成することができなかった。 |
| | C | |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|--|
| | C | 交通事故発生件数の実績値は、平成30年度と比較すると、小学校では9件減少し、高等学校では4件増加した。全体として5件減少しているが、目標値に達していないことから、評価はCとする。 目標達成に向け、事故を未然に防ぐための施策を継続しつつ、事故が起きてしまった時に備え、児童生徒の被害を最小限にとどめるための取り組みを推進してほしい。 |
| | 前回評価 | 交通事故発生件数の実績値は、全体的に増加傾向にあり、小・中学校及び高校のすべてで目標値に達していないことから、評価はCとする。 特に、小学校の事故発生件数が多く、目標との乖離が大きくなっていることから、交通ルールを守ることの大切さについて学校での安全教育や、地域ぐるみでの見守りや安全指導によりいっそう力を入れて取り組むことを期待したい。 また、現在は自転車保険の加入が義務付けられているので、加入率100%を目指し、学校側から積極的に保険の加入を推進してほしい。 |
| | C | |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(3) いじめの解消率

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|--|-----------------------------|----------------------------|--------------------|
| 市内小・中学校におけるいじめの認知件数のうち、認知年度内に解消された件数の割合。いじめが児童生徒にとって重大な事案であり、早期発見・早期対応をし、いじめの解消に努める必要があることから、この指標を選定した。 | 一人ひとりの児童生徒にとって、明るく安心して学べる学校であるためには、認知したいじめを全て解消することが不可欠であるため、この目標値を設定した。 | 小学校 100% 中学校 99.2% | 小学校 100% 中学校 100% | 60 |

平成31年（令和元年）度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | H31. 4. 1～R2. 3. 31 |
| ②実施内容 | <p>「いじめ認知件数月例報告」により、各小中学校におけるいじめの認知件数を毎月集約し、実態把握に努めるとともに、必要に応じて、学校への聴き取りや生徒指導担当指導主事が学校を訪問し、いじめの解消に向けた指導・助言を適時に行い、いじめ問題の解決に向けて各学校を支援した。併せて、いじめ問題に対して法やガイドラインに則り、組織的に対応していくことなどを「いじめ対応教員研修会」等、各種研修会を通して周知・徹底を図った。</p> <p>また、児童生徒が主体となり「いじめゼロ活動」を行うことで、各学校においていじめを許さない気運を醸成し、いじめの根絶を目指した。</p> |
| ③実施結果 | <p>いじめの認知件数は増加傾向にあるが、各学校が「いじめの定義」に基づき、積極的にいじめを認知し、早期対応・早期解決に向けて組織的に取り組んでいることが伺えた。解消率は小中学校とも100%には到達しなかったが、各学校においていじめ問題の情報を組織で共有し、全て組織で対応する意識が高まってきた。</p> |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|---|
| ①実施時期 | R2. 4. 1～R3. 3. 31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | <p>児童生徒のいじめの予防と青少年健全育成を図る取組として「いじめ予防ピンクピンバッジ」の着用を実施する。各学校の児童会役員、生徒会役員が着用し、いじめの予防を呼びかける。着用期間は、6月、9月、11月、2月である。</p> |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | H32 (R2) |
|--|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------------------|----------------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 小学校 100% 中学校 100% | 小学校 100% 中学校 100% | 小学校 100% 中学校 100% | 小学校 100% 中学校 100% | 小学校 100% 中学校 100% |
| ※ いじめ解消に対する国の方針が変更となったことに伴い、いじめが止んでいる状態が3か月継続していることが要件となったことから、平成29年度以降の実績値は翌年度6月末時点の数値とする。 | 小学校 100% 中学校 99.5% | 小学校 99.8% 中学校 99.3% | 小学校 99.2% 中学校 100% | 小学校 94.1% 中学校 93.2% | |
| | | ※平成30年6月末実績値 | ※令和元年6月末実績値 | ※令和2年6月末実績値 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|---|
| | B | 平成31年（令和元年）度のいじめの認知件数は、小学校2,470件、中学校333件といじめの認知件数は小学校において増加傾向にあり、各学校が積極的な認知に努めている状況が伺える。 いじめの解消率は、令和2年6月末において小学校が94.1%、中学校が93.2%であった。解消率の低下は、安易に「解消した」と判断せずに、経過をよく見極めている状況があると考え。このことから、目標は概ね達成できたと捉え、評価はBとした。 |
| | 前回評価 | 平成30年度の市内各学校のいじめ認知件数は、小学校が1,208件、中学校が375件と小学校・中学校ともに平成29年度に比べて大幅に増加している。いじめの定義に当てはめ、きめ細かく認知されていることが伺える。 また、いじめの解消率は、令和元年6月末において小学校が99.2%、中学校が100%であった。小学校での解消率の低下は、安易に「解消した」と判断せずに、経過をよく見極めている状況があると考え。このことから、目標は概ね達成できたと捉え、評価はBとした。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|--|
| | B | いじめの解消率の実績値は、小学校・中学校とも目標値を下回っているが、解消に努めており、目標は概ね達成していることから、評価はBとする。 いじめが長期化している案件については、児童生徒の心身の苦痛がより大きくなり、重大な問題に発展しかねないことから、早期解消に努めてほしい。また、いじめの発生を認知した際には児童生徒とその保護者へのきめ細かな対応を心がけるようにしてほしい。 |
| | 前回評価 | いじめの解消率の実績値は、小学校では目標値を下回っているが、中学校では目標値に達しており、目標は概ね達成していることから、評価はBとする。 いじめの解消の定義については、期間を定めることは難しく、国の方針の期間を経過しても、引き続き児童生徒の状況について注意深く見守っていくことが大切である。 どのような事象であっても、いじめの疑いのある案件については早期に認知するよう各学校に指導したことで認知件数が増加しているが、今後は、いじめが発生した際の学校の対応等について、案件が重大化する前に、学校と教育委員会が連携して取り組んでいく体制を構築してほしい。 また、子どもに一番近い教員が、「いじめを許さない、子どもを絶対守り抜く」というメッセージを保護者・地域に発信してほしい。 |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(4) 不登校児童生徒の割合

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|---|---|-------------------------|--------------------|
| 市内小・中学校の児童生徒のうち、一年度内に30日以上欠席した児童生徒(病気や経済的理由による者を除く)の割合。人数による比較よりも、割合で指標を示す方がより効果を検証できることから、この指標を選定した。 | 不登校の着実な解消を図るために、特に増加率が著しい中学1年生における不登校の割合を減少させることをめざして、この目標値を設定した。 | 中学1年生 平成25年度 2.69% 平成26年度 2.01% | 中学1年生 令和2年度 1.50% | 60 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | R1年6月～R2年3月 |
| ②実施内容 | 市内小・中学校において、不登校による欠席日数が30日以上ある児童生徒数(病気・経済的理由・その他による欠席は除く)並びに不登校傾向にある児童生徒数を、9月から毎月末締めで月例調査を実施した。 |
| ③実施結果 | 平成31年(令和元年)度末における不登校による欠席日数が30日以上ある中学校1年生の生徒数(病気・経済的理由・その他による欠席は除く)は、163人で中学1年生の全生徒数4,688人に対して3.48%であった。 |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|---|
| ①実施時期 | R2年6月～R3年3月 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | 各学校から報告のあった月例不登校調査に基づき、不登校並びに不登校傾向にある児童生徒がおり、生徒指導上の課題がある学校に対して、生徒指導担当指導主事による学校訪問による指導助言を行っていく。また、学校・市教委双方が不登校児童生徒の状況を共有し、不登校解消に向けた効果的な手立てについて、早い段階で対応することによって、不登校児童生徒の解消に努める。さらに、なかなか登校まで至らない児童生徒の学習保障のため、自宅においてICT等を活用した学習の推進に努めていく。 |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 中学1年生 平成28年度 2.00%以下 | 中学1年生 平成29年度 1.88%以下 | 中学1年生 平成30年度 1.75%以下 | 中学1年生 平成31年度 1.63%以下 | 中学1年生 令和2年度 1.50%以下 |
| | 中学1年生 平成28年度 2.13% | 中学1年生 平成29年度 3.07% | 中学1年生 平成30年度 3.24% | 中学1年生 平成31年度 3.48% | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|--|
| | C | 不登校児童生徒の割合が昨年度より増加傾向となった。不登校が小学校からの「継続」なのか、中学校からの「新規」なのか、生徒一人一人の不登校の要因を分析し、学校や関係機関と連携しながら対応していかなければならない。したがって、生活習慣の確立、基礎基本の定着や特別活動や地域における社会体験等を通して、学校における生徒の「居場所づくり」や「絆づくり」ができるよう、生徒指導担当学校訪問や各学校の取組を充実させていく。不登校数の解消は、学校現場だけの対応が困難になってきていることから、家庭や地域との連携を図り、支援していく体制を強化していく必要がある。 |
| | 前回評価 | 不登校児童生徒の割合が昨年度より増加傾向となった。不登校が小学校からの「継続」なのか、中学校からの「新規」なのか、生徒一人一人の不登校の要因を分析し、学校や関係機関と連携しながら対応していく。また、生活習慣の確立、基礎基本の定着や特別活動や地域における社会体験等を通して意図的に生徒の「居場所づくり」や「絆づくり」ができるよう、生徒指導担当学校訪問や各学校の取組を充実させていく。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|---|
| | C | 不登校児童生徒の割合は、前年度より増加しており、目標を達成できていないことから、評価はCとする。 不登校となっている原因などを分析することによって個々の対応を検討し、学校と家庭とが一体となって不登校解消を目指してほしい。また、ICTを活用した特別授業を実施するなど学習の機会を提供することで不登校となっている児童生徒への支援を充実させてほしい。 |
| | 前回評価 | 不登校児童生徒の割合は、年々増加しており、目標を達成できていないことから、評価はCとする。 不登校となるには様々な要因が考えられるので、個々の状況についてしっかりと実態を把握し、要因を分析することが重要であり、それぞれの状況に合わせた支援を講じることで、改善につなげていけるよう努めてほしい。 |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

| 指標(5) 各学校における「学校応援団平均活動回数」(年間) | | | | |
|---|--|-------------------------------|---------------------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| 市内小・中学校の各学校の学校応援団の1校当たり年間の平均活動回数(安心安全見守り活動を除く)。さらなる活動内容の充実が、学校・家庭・地域の教育力の向上につながることから、この指標を設定した。 | 登下校の見守り活動については、多くの活動回数があり定着しているが、学習支援や地域活動と連携した活動などその他の活動を充実させていく必要がある。年間の授業時数などを考慮し、年間20回程度増やすことをめざして、この目標値を設定した。 | 小学校 103.7回 中学校 34.1回 | 小学校 120回 中学校 50回 | 64 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | H31.4.1~R2.3.31 |
| ②実施内容 | 学校応援団リーフレットの配布、ホームページでの活動紹介、学校応援団コーディネーター研修会の開催等を通じて、学校における学習活動、安全確保、環境整備などのボランティアとして保護者や地域住民の参加を促し、各学校で組織されている学校応援団活動の充実を図った。研修会では、文部科学大臣賞を受賞した小谷場中学校の取組を紹介した。また、「スクールガード・リーダー研修会」では、前川小学校の見守り活動の取組を紹介した。 |
| ③実施結果 | 学校応援団活動(学習活動、環境整備、部活動・クラブ活動、環境教育、体験活動、生徒指導、学校ファームへの支援)の1校あたりの平均活動回数は、小学校が122.8回、中学校が26.2回であった。 |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|--|
| ①実施時期 | R2.4.1~R3.3.31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | 小・中学校での活動回数を増やすために、活動を推進する研修会の充実、各学校における活動内容の充実を促すリーフレット・ガイドブック・ホームページを活用し、地域・民生委員への周知を行う。生涯学習課とともに、「地域学校協働活動」として、学校と地域の活動に働きかけ、推進委員の組織を編成し、活動内容を充実させ、令和2年度の目標値を目指す。 |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|---------------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 小学校 120回 中学校 35回 | 小学校 120回 中学校 35回 | 小学校 120回 中学校 40回 | 小学校 120回 中学校 45回 | 小学校 120回 中学校 50回 |
| | 小学校 126.9回 中学校 29.3回 | 小学校 107.5回 中学校 28.7回 | 小学校 101.9回 中学校 33.4回 | 小学校 122.8回 中学校 26.2回 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|---|
| | B | 小学校は目標値に達することができたが、中学校の数値は大幅に下降が見られた。学校応援団コーディネーター研修会及びスクールガード・リーダー研修会の取り組み、学校応援団リーフレット・ガイドブックを作成と配布、ホームページの公開などの質の向上を図り、目標達成のために、生涯学習課と協働し、組織の再編を計画している。よって、評価をB評価とする。 |
| | 前回評価 B | 小・中学校ともに目標値を下回る結果であったが、中学校の数値は昨年度に比べ上昇が見られた。学校応援団推進委員会の運営、学校応援団コーディネーター研修会及びスクールガード・リーダー研修会の取り組み、学校応援団リーフレット・ガイドブックを作成と配布、ホームページの公開など、目標達成のための手立てをとり進めているため、B評価とする。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|--|
| | B | 学校応援団の平均活動回数の実績値は、中学校では目標値を下回っているが、小学校では平成30年度より増え、目標値を達成できているところから、評価はBとする。 学校応援団の活動は地域の方々とのつながりを深くできる重要なものである。学校応援団の活動回数を増やすことにとられず、学校応援団の活動が学校の求めるニーズに合致するよう協力体制を築いてほしい。また、地域によって差があるように感じるため、ホームページ等を活用し、学校応援団の活動について地域の人々に周知し理解してもらい、より地域との連携を深められるよう努めてほしい。 |
| | 前回評価 B | 学校応援団の平均活動回数の実績値は、小・中学校ともに目標値を下回っているが、中学校では平成29年度より増えていることから、目標は概ね達成されており、評価はBとする。 学校応援団の活動は、学校と地域が連携していく上で非常に重要な活動であるが、学校が活用しきれていない面がある。より多くの市民に知ってもらい、地域や保護者が安心して積極的に活動できるよう、リーフレットの内容や配布方法について検討してほしい。 |

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(1) 生涯学習施設の年間利用者数

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|-------------------------------|--|-------------|--------------------|
| 市内公民館及び専門施設の年間利用者数。 今日的課題や市民ニーズに合わせた学習機会の提供とその成果を示すものとしてこの指標を選定した。 | 年間利用者数を毎年1.12%増加をめざし目標値を設定した。 | 1,933,416人 ※ システム改修後の 現状値 (平成27年度) 2,376,472人 | 2,067,034人 | 70 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | H31.4.1～R2.3.31 |
| ②実施内容 | 生涯にわたり多くの市民の自発的・主体的な学習活動の拠点として、市内公民館及び専門施設の部屋を提供することで、地域社会における文化の向上や福祉・健康の増進を推進した。 また、魅力ある多種多様な講座・教室を実施することにより、学習機会を提供した。 |
| ③実施結果 | 年間利用者は前年度と比較すると280,429人減少した。 平成30年度利用者数…2,521,240人 平成31年度利用者数…2,240,811人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月4日から市内公民館及び専門施設を臨時休館とした。 ※台風第19号の影響で一とき避難所開設や選挙の投票所として利用された期間があったため、一般利用ができない期間が多くあった。 |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|---|
| ①実施時期 | R2.4.1～R3.3.31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | 幅広い年齢層の市民が学習活動できる拠点を提供することはもとより、施設の耐震工事やトイレの洋式化等を推進し、さらなる利用者へのサービス向上に努める。 |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|--|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | | | | | |
| ※ 目標値の再設定について平成27年度に実施したシステム改修に伴い利用者集計方法が変更となったため、平成27年度の利用者数を基準値として、目標値を再設定したもの。 新たな目標値： 平成27年度の実績値を基準値とし、毎年1.12%増加した数値を目標値とする。 ()内は新たな目標値 | 1,976,967人 (2,403,088人) | 1,999,109人 (2,430,003人) | 2,021,499人 (2,457,219人) | 2,044,140人 (2,484,740人) | 2,067,034人 (2,512,569人) |
| | 2,459,298人 | 2,418,118人 | 2,521,240人 | 2,240,811人 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|--|
| | B | <p>利用者数が減少した理由として、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月4日から全施設が休館したこと、3月に開催予定であった例年多くの来場者がある戸塚公民館と中央ふれあい館の文化祭を中止したこと。また、選挙の投票所として利用された期間があり、一般の利用ができなかったこと。台風第19号の際、施設に一時避難所が開設されたことなどにより、目標値を達成することができなかった。このことから、評価結果はBとする。</p> |
| | 前回評価 A | <p>利用者数が目標値に達しており、4.26%増加していることから、多くの市民の自発的・主体的な学習活動の拠点として公民館等を提供することとともに、魅力ある講座・教室を実施することにより学習機会を提供することができたと考えている。このことから評価結果はAとするもの。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|---|
| | B | <p>年間利用者数の実績値は、平成30年度を下回っており、目標値に達していないが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全施設が臨時休館となったことや、選挙の投票所や台風第19号の避難所として利用されたため一般の利用ができなかったことを考慮し、評価はBとする。 各種の広報手段を使って、積極的に利用促進を図っている取り組みを評価しているので、今後も引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を含め、利用者への広報を継続してもらいたい。</p> |
| | 前回評価 A | <p>年間利用者数の実績値は、平成29年度に比べ大幅に増加しており、目標値を上回っていることから、評価はAとする。 今後も引き続き、市民が生涯学習活動の拠点として公民館を利用できるよう推進するとともに、より多くの市民に公民館の活動について興味を持ってもらうため、広報紙・ホームページ等での周知の方法を工夫してほしい。</p> |

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(2) 公民館及び専門施設の年間講座参加者数

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|-----------------------------------|----------------|-------------|--------------------|
| 市内公民館及び専門施設主催の年間講座参加者数。 今日的課題や市民ニーズに合わせた学習機会の提供とその成果を示すものとしてこの指標を選定した。 | 年間講座参加者数を、毎年0.175%増加をめざし目標値を設定した。 | 256,756人 | 259,000人 | 70 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | H31.4.1～R2.3.31 |
| ②実施内容 | 自己実現をめざす市民の多様な学習・活動意欲の高まりに対応するため、地域の特性や市民の要望を踏まえ、公民館及び専門施設において、川口市民大学公開講座「土俵の心～世界とつながる～」など、魅力ある多種多様な講座・教室を実施することにより、一般教養はもとより専門性の高い分野や現代的課題の学習機会を提供した。 |
| ③実施結果 | 公民館及び専門施設において主催した講座・教室および文化祭や他部署との共催事業等の延べ参加者数、事業数(講座数等)。 平成30年度講座参加者数…253,763人 事業数(講座数等)…818事業 平成31年度講座参加者数…216,107人 事業数(講座数等)…770事業 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月4日から市内公民館及び専門施設を臨時休館とした。 |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|---|
| ①実施時期 | R2.4.1～R3.3.31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | 公民館及び専門施設において、地域での課題や幅広い年齢層の学習ニーズを把握することで、さらに魅力ある多種多様な講座・教室を企画・実施し、主催講座の延べ参加者数の増加に取り組む。 |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|----------|----------|----------|----------|----------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 257,197人 | 257,647人 | 258,097人 | 258,548人 | 259,000人 |
| | 276,909人 | 262,345人 | 253,763人 | 216,107人 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|---|
| | B | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月4日から全施設が休館し、また3月に開催予定だった例年多くの来場者がある戸塚公民館と中央ふれあい館の文化祭を中止したことなどにより、参加者数が減少したため、目標値を達成することができなかった。このことから、評価結果はBとする。 |
| | 前回評価 C | 前川公民館・神根東公民館・新郷南公民館・青少年会館が設備補修・耐震補強・耐震改修・建替工事等により休館となった影響から、年間講座参加者数が前年度と比較して8,582人の減少、3.27%の減となったこと、また、年間講座参加者数が目標値を下回っていることから評価結果はCとする。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|---|
| | B | 年間講座参加者数の実績値は、平成30年度より減少し、目標値を下回っているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全施設が臨時休館となり、やむを得ず中止となった講座があったことから、評価はBとする。 今後は、オンライン講座など新型コロナウイルス感染症を想定した「新しい生活様式」に対応した施策について検討を進め、可能であればぜひ実施してほしい。 |
| | 前回評価 B | 年間講座参加者数の実績値は、平成29年度より減少し、目標値をわずかに下回っているが、施設改修により講座や文化祭が開催できなかった公民館があったことを考慮し、評価はBとする。 あらゆる世代に講座に参加してもらうために、従来の利用者に向け多種多様な講座を提供していくとともに、土日開催の講座や単発開催の講座を増やし、新規の利用者も参加しやすいような工夫をすることで、参加者数の増加に繋げてほしい。 |

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

| 指標(3) 図書館年間利用者数(入館者数) | | | | |
|--|-------------------------------------|----------------|-------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| 図書館資料貸出数で捉えると閲覧等の場合数値に含まれないため、利用者数(入館者数)とした。 | 利用者が減少傾向にあるため、過去5年間年平均0.51%減を設定とした。 | 1,895,301人 | 1,838,039人 | 72 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

- ①実施時期 H31.4.1~R2.3.31
- ②実施内容
 移動図書館車の定期巡回、おはなし会等の定例事業実施の他、図書館の新たな取り組みとして、中央図書館児童コーナーを利用した学校との連携事業と、大人向けイベント「かわぐち本の処方箋〜心に効くおすすめの一冊〜」を実施した。
 また、普段図書館を利用していない方に向けて、市内の商業施設と連携し図書館事業のPR活動を行った。
- ③実施結果
 入館者数1,608,239人、移動図書館利用者数3,812人、おはなし会参加人数5,449人、「かわぐち本の処方箋〜心に効くおすすめの一冊〜」の貸出数369冊の利用、参加があった。
 また、市内商業施設においては約2,000人の来場者に図書館のPRを行った。
 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月3日から全館を臨時休館とした。

| | H29 | H30 | H31(R1) |
|-----------|--------|--------|---------|
| おはなし会参加人数 | 6,751人 | 6,785人 | 5,449人 |
| 移動図書館利用者数 | 3,990人 | 4,064人 | 3,812人 |

令和2年度以降の取り組み

- ①実施時期 R2.4.1~R3.3.31
- ②見直し等が必要な事項、また見直した事項
 新しい生活様式の指針に基づく、安全安心な施設と充実したサービスが両立する図書館像を目指し、閲覧席の事前予約制を導入する。

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31(R1) | R2 |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 1,876,018人 | 1,866,450人 | 1,856,931人 | 1,847,461人 | 1,838,039人 |
| | 1,800,432人 | 1,769,106人 | 1,774,491人 | 1,608,239人 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|---|
| | B | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月3日から全館臨時休館とした影響により、指標である入館者数は目標値を下回った。しかしながら中央図書館の児童コーナーにおいて一般に開放されていなかった部屋を活用し、市内の学校と連携した図書のPOP展示や、利用者の感情にあわせて本をご案内する大人向けイベント「かわぐち本の処方箋～心に効くおすすめの一冊～」の実施等、図書館の新たな取り組みを行った。また、市内商業施設において移動図書館車の紹介、大型絵本の読み聞かせ等を行い商業施設来場者に図書館のPRをすることができたことから評価はBとした。 |
| | 前回評価 B | 利用者と本の新たな出会いのきっかけを作ることを目的とした「本の福袋」（愛称：かわぐちラッキーバッグ）の貸出等に加え、平和展ブックトークなど、他の部局との連携事業を行い、今後も拡充していくこととしていることから、評価結果はBとした。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|--|
| | B | 年間利用者数の実績値は、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館の影響も考えられるが、目標値に達していないことから、評価はBとする。 図書館の蔵書の活用の一環として市内学校への図書の貸し出しを行っているほか、市内商業施設の集客力を利用したイベントを開催し来館につなげるなど、積極的な取り組みを行っていることがうかがえる。今後も多くの方に図書館を知ってもらえるよう周知するとともに、コロナ禍の中、今後も引き続き安心して利用できるよう取り組んでほしい。 |
| | 前回評価 B | 年間利用者数の実績値は、平成29年度に比べ増加しているが、目標値には達していないことから、評価はBとする。 「かわぐちラッキーバッグ」やブックトーク、おはなし会など、図書館独自の取り組みを行っており、図書館の利用促進のため努力している点は高く評価できる。また、インターネットを利用したサービスも充実させているので、今後は、多様な取り組みを、多くの市民に知ってもらえるような周知方法について検討してほしい。 |

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(4) 科学館の年間利用者数

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|--|----------------|------------------------|--------------------|
| 科学館における科学展示事業・天文台事業・プラネタリウム事業の参加者数、科学出張教室・太陽観測出張授業・夜間出張観望会などの館外事業参加者数。科学への市民の興味・関心を引く事業の充実や、学校との連携・協力による理科教育への支援の成果を示すものとして、この指標を選定した。 | 科学館の過去5年間の年平均増減率6.9%増(平成30年度以降は1.7%増)の数値を踏まえ、この目標値を設定した。 | 170,019人 | 253,725人 (189,522人) | 74 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | H31.4.1～R2.3.31 |
| ②実施内容 | <p>○科学展示事業…実験ショーや身近な素材を使った簡単な科学ものづくり教室および講義と観察・実験・工作を組み合わせた「夏休み科学教室」や「サイエンスクラブ」等を実施。館外事業では学校の授業の一環で行う科学出張教室等を実施。インストラクター委託業務による展示装置の解説やテーマのあるものづくり・観察実験補助。</p> <p>○天文台事業…屋上の主天文台と副天文台でその日によく見える惑星や月、星雲等を観察する夜間観測会を実施。また副天文台での太陽観測と3つの天文台を案内する天文台ガイドツアーの実施。館外事業では学校等の依頼により太陽観測出張授業や夜間出張観望会等を実施。特別観測会としては「木星・土星」、「部分日食」などを実施。夏休み期間に観望好機となった「木星・土星」の特別観測会は、広報にも力を入れ、市内掲示板及び広報かわぐちに掲載。</p> <p>○プラネタリウム事業…一般投影(小学生～一般対象)、キッズアワー(幼児・小学校低学年とその保護者)、学習投影(市内小学校4年生、希望する中学校、幼稚園・保育所)、宇宙の教室(小学校高学年から大人まで学べる天文講座)等を実施。</p> <p>○特別企画事業…職員の企画立案による手作りの特別展のほか、関連団体からの展示物の借用及びテーマに精通した業者への委託による特別展を実施。また、専門的な知識や体験を得られるよう、国立科学博物館をはじめとする他機関との連携を深めることにより内容の充実を図った。</p> |
| ③実施結果 | <p>○科学展示事業…科学展示施設入場者89,305人・館内事業参加者数29,301人・館外事業参加者数9,371人</p> <p>○天文台事業…天文台公開参加者数2,154人・太陽観測出張授業730人・夜間出張観望会292人</p> <p>○プラネタリウム事業…プラネタリウム観覧者数35,846人</p> <p>○特別企画事業…31,960人</p> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月29日から臨時休館とした。</p> |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|--|
| ①実施時期 | R2.4.1～R3.3.31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | <p>科学館の運営については、感染防止策を講じた上で、安心して利用できる施設であることを周知するとともに、来館者へ入館マナーなどの協力をお願いしていく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策の影響による臨時休館に伴い児童・生徒向けに配信を始めた「家でもチャレンジ!学習支援コンテンツ」は、資料も蓄積され閲覧者もいることから、今後も継続する。従来実施してきた実験ショーや科学教室、地域学校連携となる館外事業については、内容の充実や実施方法の改善など他館を参考にしながら模索する必要がある。また、コロナ禍による新たな広報媒体としてSNSの内容を検討し情報周知を図る。</p> <p>事業で使用する装置や機器の更新・改修は、事業に見合った計画を立てるとともに慎重に予算の要望に努める。</p> |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|---|----------|----------|------------------------|------------------------|------------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 194,291人 | 207,697人 | 222,028人 (183,238人) | 237,348人 (186,353人) | 253,725人 (189,522人) |
| ※ 目標値の再設定について 当初目標設定の基準とした期間は通常の増加率を大きく超え実績を伸ばした期間であり、現在に至っては実績値と目標値が大きく乖離し始めたため、目標値を再設定するもの。 新たな目標値： 平成29年度の科学展示事業など各事業ごとの実績値に1.7%を増加し、その合計したものを平成30年度の目標値とする。以後同様に加算し目標値とする。 ()内は新たな目標値 | 167,691人 | 180,174人 | 188,036人 | 198,959人 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|--|
| | A | <p>科学館事業は、博学連携を確立するために、小・中・高校との理科教育の充実と関係機関との積極的な連携を目指した結果、年間利用者数の実績値が目標値の106.8%と上回った。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月29日から臨時休館にせざるを得なかったことは、数値の伸びしろに影響が出た結果となった。しかし、前年度実績比では、10,923人(5.8%)の増であったことから評価結果は、Aとした。</p> <p>全体的には、科学現象の原理原則を学ぶ展示装置や、科学の基礎を学習する科学実験ショーや科学ものづくり教室、天文台夜間観測会、国立天文台アルマプロジェクト特任准教授を招いての講演会等、科学館ならではの専門性の高い事業を展開し大人から子どもまで楽しみながら学べ、幅広い年齢層に対し生涯教育的効果を担った。</p> <p>中でも特別企画事業期間中の入館者数が前年度比の約13%の増となり、期待した効果が得られた。また、天文台事業では、「木星・土星」、「部分日食」などの特別観測会を実施。2日間の実施で420人の方が参加、機会を捉えた好評な事業となり、多くの方が天文学や科学全般に関する興味・関心を高めることができた。</p> |
| | A | <p>年間利用者数の実績値は目標値の102.6%と上回り、前年度実績比では7,862人(4.4%)の増であったことから評価結果はAとした。開館15周年を迎え、開館記念日の5月3日にはイベント数を増やし、多くの来館者を迎えることができた。また、科学現象の原理原則を学ぶ展示装置や、科学の基礎を学習する科学実験ショーや科学ものづくり教室、天体観測会、若田宇宙飛行士や東京大学准教授を招いての講演会等、科学館ならではの専門性の高い事業を展開し大人から子どもまで楽しみながら学べ、幅広い年齢層に対し生涯教育的効果を担った。</p> <p>特に天文台では、火星と地球が15年ぶりに大接近するなど話題となった天文現象が多くあり、大勢の方が天文台の望遠鏡を利用し大きく明るい火星の表面の様子を実際に観測。また、部分日食の観測会では、小型望遠鏡や遮光板等を使用し、欠けていく太陽を実際に観測し300人を超える方が参加した。自然現象をリアルタイムで観ることは、効果的な学習機会となり、参加者の満足度は特に高かった。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|--|
| | A | <p>年間利用者数の実績値は、平成30年度より増加しており、目標値を上回っていることから、評価はAとする。</p> <p>天文台事業や科学展示事業をはじめ、学習支援コンテンツ制作など児童生徒の学習をサポートするための事業も積極的に行っており、市民への科学と接する機会を提供しているところを高く評価している。今後も、学習支援コンテンツ等の施策を充実させるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている学校教育の現場をサポートしてほしい。</p> |
| | A | <p>年間利用者数の実績値は、平成29年度より増加しており、目標値を上回っていることから、評価はAとする。</p> <p>科学展示事業や天文台事業など、児童生徒を始め多くの市民に、科学と触れ合う場を提供していることが、高く評価できる。</p> <p>今後も引き続き、市内小・中学校と連携した事業を推進するとともに、多様な事業を、多くの市民に知ってもらえるような周知方法について検討してほしい。</p> |

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(5) スポーツ施設の年間利用者数

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|--------------------------------------|----------------|-------------|--------------------|
| 市民のスポーツ・レクリエーションに対するニーズや健康に対する意識も高まっており、スポーツ活性化を促進し、健康・体力づくりやスポーツ人口の拡大を示すものとして、この指標を選定した。 | 利用者数が増加傾向にあるため、過去5年間年平均1.91%増を設定とした。 | 2,494,205人 | 2,794,042人 | 76 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

①実施時期 H31.4.1～R2.3.31

②実施内容

利用者の健康・体力づくりやスポーツに対する需要に応えるため、スポーツ施設を利用者の自主的なスポーツ活動の場として提供するとともに、トップアスリートを招いたオリンピック・パラリンピック普及啓発イベントの開催や、大会開催時には、観戦や応援に訪れた方にも施設を開放し、スポーツに触れる機会を提供した。
また、スポーツ施設の整備・充実を図るため、芝スポーツセンターの耐震補強工事や西スポーツセンタープール特定天井等改修工事などの大規模改修を計画的に実施し、安全かつ安心な施設として利用者に提供した。

③実施結果

大規模工事が完了し再開した施設があった一方で、施設改修工事及び新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により施設利用できない期間(3月3日から屋内施設休止)があったため、目標値を下回った。
※主な施設再開に伴う利用者増(約14万4千人増、平成30.31年度実績値からの推定)
・西スポーツセンタープール(約7万5千人、令和元年7月再開)・新郷スポーツセンター体育館、プール等(約5万8千人、平成31年4月再開)・赤井少年サッカー場他2施設工事完了(約1万1千人)
※主な施設改修による休止に伴う利用者減(約11万7千人減、平成30年度実績値からの推定)
・芝スポーツセンター耐震改修(約7万9千人、約7か月休止)・北スポーツセンタープール塗装(約1万人、約4か月休止)・青木町公園総合運動場野球場耐震改修(約7千人、約4か月休止)・西スポーツセンター体育館床改修(約4千人、約2か月休止)・鳩ヶ谷武道場外壁改修他4施設改修(約1万7千人)
※台風第19号による災害復旧に伴う利用者減(約1万7千人減、平成30.31年度実績値からの推定)・三領運動場、舟戸運動場、上谷沼運動広場、河原町フットサル場を休止
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月29日からトレーニングルームを休止し、その後、感染状況により、順次屋内全施設を休止したことに伴う利用者減(約10万人、平成30.31年度実績値からの推定)

令和2年度以降の取り組み

①実施時期 R2.4.1～R3.3.31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

利用者の健康・体力づくりやスポーツに対する需要に応え、今後もスポーツ活動の場として利用者に安全に施設を提供するため、施設の計画的な改修及び設備の更新を行うとともに、スポーツ関係団体が開催する大会等の会場確保等を支援し、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」機会の提供を継続して取り組むことに努める。
また、スポーツ少年団に関して、統合等により団体数が減少していることから、スポーツ少年団本部の活動情報等を市ホームページに掲載し、スポーツ少年団の充実を支援する。
既存の市直営施設に関わる指定管理者制度導入については、地域に根ざした施設の管理、運営方法は直営方式に優位性があるとして、早期の導入は見送りとしたが、引き続き指定管理者制度について研究を継続する。

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 2,590,394人 | 2,639,870人 | 2,690,292人 | 2,741,676人 | 2,794,042人 |
| | 2,460,904人 | 2,326,647人 | 2,201,351人 | 2,154,439人 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|--|
| | B | <p>スポーツ施設の老朽化に伴い長期間休止していた施設の利用が再開したことにより、利用者の増加を図ることができたが、芝スポーツセンターの耐震補強工事をはじめとする各施設の改修工事による施設休止に加え、台風第19号による被災及び新型コロナウイルス感染症拡大防止対策によって施設休止を余儀なくされたこともあり目標値に達しなかったことから評価結果はBとした。</p> <p>しかしながら、スポーツ施設の計画的な改修や、スポーツ少年団をはじめとするスポーツ関係団体への支援及び市在住の68歳以上の方の施設使用料免除を継続し、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の利用者に施設を提供でき、本市スポーツの推進に貢献することができた。</p> |
| | 前回評価 B | <p>継続事業である新郷スポーツセンターの耐震補強工事をはじめ、西スポーツセンタープール天井等改修工事など施設の設備改修に伴い休館期間が生じたことにより、目標値には達しなかったことから評価結果はBとした。しかしながら、平成30年度においては、新郷スポーツセンターの耐震補強工事や北スポーツセンター体育館天井及び照明等の改修並びに赤井少年サッカー場人工芝張替工事など、スポーツ施設の整備・充実を図り、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の利用者にスポーツ活動の場を提供したことにより、世代交流や体力づくりへの意欲向上につなげることができ、本市のスポーツ推進に貢献することができた。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|---|
| | B | <p>年間利用者数の実績値は年々減少傾向にあり、平成31年度の実績値は目標値に達していないが、新型コロナウイルス感染症の影響や、施設の年次的な改修などを考慮し、評価はBとする。</p> <p>68歳以上の方の個人利用が増えている一方で、スポーツ少年団の数が年々減少していることなどが利用者数の減少に関係していると考えられるので、今後対策を検討してほしい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>年間利用者数の実績値は、平成29年度より減少し目標値に達していないが、施設改修により休止となっている施設があったことを考慮し、評価はBとする。</p> <p>年々利用者数が減少しており、現状の実績値と目標値に乖離があるので、施設改修後に目標値に近づいているかを確認しながら、利用者数増加に向けた今後の取り組みについて検討した方がよい。</p> |

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(6) 人材の登録者数

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|--|----------------|-------------|--------------------|
| 文化芸術活動を担う人材の登録者数。 文化芸術活動を支援していくことで、文化芸術への関心や意欲を高め、次世代の人材の育成を示すものとして、この指標を選定した。 | 文化団体のほか、市内を拠点として文化芸術活動を行っている人材の登録者数を毎年度30人程度増加させることを目標とした。 | 864人 | 1,040人 | 80 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

①実施時期 H31.4.1～R2.3.31

②実施内容

「人材の登録者数」とは、本市が実施する事業に係る会議体への参加者(審議会等)、関係文化団体、市民コンサート等イベント出演者(ゲストを含む)、アトリアにおける展覧会出展者、アトリア貸し館事業利用者、ワークショップ等の講師、文化振興助成対象者、旧芝園中学校を本拠とするアブリュススタジオ利用アーティスト等を個人・団体の区別なく、「人材の登録者数」として報告している。従って、実際に登録制度があるものではなく、毎年その総数を報告している状況である。

本指標の趣旨は、文化事業の実施主体となり得る個人・団体の創出と育成を図ることであることから、各事業に携わる個人・団体の総数の増加を目指すことは必要と考えるが、実際に繰り返し事業実施者となる個人・団体数に著しい変化はない状況である。

文化推進室としては、これら個人・団体数の増加を目指し、「文化振興助成制度」(平成18年度創設)の事業採択をした毎年約10件について、上限20万円の補助を行っているほか、市内各所で実施される様々なイベントに伺い、実施者の方との繋がりを構築し、未だ「人材の登録者数」としてカウントされていない方々のご意見ご要望のヒアリングに努めている。また、文化祭、文化芸術鑑賞事業、市民コンサート事業、アートギャラリーボランティア登録制度、アーティスト発掘支援制度などを実施することで、市内文化事業を担う人材の創出、育成に努めている。

③実施結果

主な内容は下記のとおり。

- ・文化祭…各団体の成果発表などの場として開催。【主催】川口市文化祭実行委員会【後援】川口市・川口市教育委員会・川口市文化団体連合会・川口市民音楽協会
- ・文化芸術鑑賞事業…「子ども和太鼓教室」開催。【主催】川口市教育委員会【協力】初午太鼓保存会
- ・市民コンサート事業…「コカリナの調べ」開催(炬火台設置記念式典同時開催)。【主催】川口市教育委員会
- ・アートギャラリーボランティア登録制度…ワークショップや実技講座講師の補助など(登録者数17人)
- ・アーティスト発掘支援制度…市主催イベント等に出演する音楽分野のアーティスト登録制度(H31年度新規登録者数2人)
- ・文化振興助成制度…H31年度9事業採択・総額154.5万円助成

令和2年度以降の取り組み

①実施時期 R2.4.1～R3.3.31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

見直しが必要な事項：市民共有の財産である本市所有美術品の展示・公開の機会の創出

見直した事項：国・県が実施する各種補助制度及び表彰制度等の情報提供

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|------|------|------|----------|--------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 894人 | 894人 | 940人 | 990人 | 1,040人 |
| | 791人 | 781人 | 830人 | 900人 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|---|
| | B | <p>実績値は900人で前年度より70人増加しているが、目標値990人の91%であることから、評価結果はBとする。</p> <p>文化芸術鑑賞事業として実施した「子ども和太鼓教室」には、初午太鼓保存会から講師等15人の協力者があり、市民コンサート「コカリナの調べ」には子どもから大人まで46人の出演者があるなど、若干増加したが、関係文化団体の会員等については、ほとんど変化がみられない状況となっている。</p> |
| | 前回評価 B | <p>実績値は830人で前年度より49人増加しているが、目標値940人の88%であることから、評価結果はBとする。</p> <p>平成30年度に美術館建設検討に係る審議会を設置したことや、アーティスト発掘事業の登録者増など、本市事業に関連した増加がみとめられるものの、関係団体については、高齢化や新規加入が進まないこと等の要因により、横ばいまたは減少傾向にある。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|--|
| | B | <p>人材の登録者数の実績値は、目標値に達していないが、平成30年度より増加しており目標は概ね達成されていること、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響でイベント等が行えない状況だったことを考慮し、評価はBとする。</p> <p>今後も人材の発掘や育成に努めるとともに、各種補助制度等を通して様々な団体・個人の活動を支援してほしい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>人材の登録者数の実績値は、目標値には達していないが、平成29年度より増加しており、目標は概ね達成されていることから、評価はBとする。</p> <p>今後も、文化団体等へのヒアリング等からニーズを把握し、市民の文化芸術活動の推進に貢献できるような人材の発掘や育成に努めてほしい。</p> |

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(7) アートギャラリーの年間利用率

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|--|----------------|-------------|--------------------|
| アートギャラリースタジオ、展示室A・Bの年間利用率。 アートギャラリーは文化芸術の振興拠点となる施設であり、その成果を示すものとして、この指標を選定した。 | アートギャラリースタジオ、展示室A・Bの利用率を現状値より、増加させることを目標とした。 | 97% | 100% | 82 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | H31.4.1～R2.3.31 |
| ②実施内容 | <p>実施事業は、「自主企画事業」「共催事業」「ワークショップ事業」「実技講座」「鑑賞講座」「企画展関連事業」及び「貸し館事業」の7種から成り、各世代の市民がそれぞれ楽しめるとともに、アートに興味を抱かせる内容として実施している。</p> <p>自主企画事業：アーティストインスクール、企画展3回、アートな年賀状展(計5事業)</p> <p>共催事業：美術家協会選抜展、小中高硬筆展、水道ポスターコンクール、特別支援学級合同作品展 美術家協会アートな毎日、中学生のアートクラブ展、小中高書きぞめ展覧会 図工美術まなび展(計8事業)</p> <p>ワークショップ事業：クリスマス関連ほか(計7事業)</p> <p>実技講座：木炭デッサン(計1事業)</p> <p>鑑賞事業：盆栽鑑賞入門(計1事業)</p> <p>企画展関連イベント事業：各自主企画展関連(計13事業)</p> <p>貸し館：156日(展示室A:52日、展示室B:64日、スタジオ:40日)</p> |
| ③実施結果 | <p>全室共通で、開館日数は、366日から休館日100日を差し引いた266日。</p> <p>①展示室Aは、未利用日が18日あるので利用日数は248日で年間利用率93.2%</p> <p>②展示室Bは、未利用日が6日あるので利用日数は260日で年間利用率97.7%</p> <p>③スタジオは、未利用日が1日あるので利用日数は265日で年間利用率99.6%</p> <p>平均年間利用率は96.9%となった。</p> |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|---|
| ①実施時期 | R2.4.1～R3.3.31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | <p>未利用日の解消を図るため、平成31年度は一部未利用日について新たに近隣施設との連携事業を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により未実施となった。今後は、使用例なども掲載した貸しギャラリー用の新たな利用パンフレットを作成し施設の利用促進を図ると共に、未利用日については近隣施設との連携事業を実施するなど空き日の解消に努め、利用率の向上を目指していく。</p> |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|-------|-------|-------|----------|------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 97.0% | 97.5% | 98.0% | 99.0% | 100% |
| | 96.7% | 94.3% | 96.4% | 96.9% | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|--|
| | B | 目標値99.0%に対し、実績値は3室平均96.9%で目標値には到達していない。しかしながら、前年度実績値を上回り、個別にはスタジオ利用率が99.6%と高い利用率を示していること、また、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった近隣施設との連携事業が実施されていればスタジオBは100%で3室平均も98.4%と高い利用率を見込めたことからB評価とする。 |
| | 前回評価 | 目標値98.0%に対し、実績値は3室平均で96.4%であり目標値には到達していないが、前年度平均94.3%は上回り、また、個別には展示室Aの利用率は98.5%と高い利用率を示していることからB評価とする。 |
| | B | |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|--|
| | A | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響でやむを得ず中止となった近隣施設との連携事業が実施されていれば98.4%と目標値に迫る高い利用率を達成しており、未利用日の解消に向け新たな事業を計画するといった努力がみられることから、実績値は目標値を下回っているが、評価はAとする。 中止となった近隣施設との連携事業は非常に興味深い内容であると思うので、今後も施設の利用促進を図ることに併せ、魅力ある事業を展開し、利用率の向上に努めてほしい。 |
| | 前回評価 | 年間利用率の実績値は、目標値には達していないが、平成29年度より上昇しており、高い利用実績があったことから、評価はBとする。 |
| | B | 目標値が非常に高いため、目標を達成することは難しいと思うが、施設の利用可能期間について広く市民に周知し、再度利用希望を募るなど、今後も引き続き、利用率をあげるよう工夫してほしい。 |

基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用

| 指標(1) 文化財センター及び分館への年間来館者数 | | | | |
|--|-------------------------------------|----------------|----------------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| 文化財の調査・保存や伝統文化などの文化財情報を市民へ発信する場である常設展示・特別展示等において、情報を共有していただいた市民の人数として、この指標を設定した。 | 平成24年度から26年度3カ年の平均来館者数の20%増加を目標とした。 | 10,413人 | 14,000人 (20,494人) | 88 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | H31.4.1~R2.3.31 |
| ②実施内容 | 分館(郷土資料館)の秋季企画展は、「醸造」をテーマとして実施し、味噌醸造家が建てた旧田中家住宅(分館)をサテライト会場として連携を図った。また、本館・分館(旧田中家住宅・郷土資料館・歴史自然資料館)において市内小中学校の社会科学見学の受け入れを行ったほか、教育委員会主催・共催の文化行事を実施し、来館者数の増加を図った。 |
| ③実施結果 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、郷土資料館(分館)の冬季企画展が途中で中止になるなど、年度末の各種行事が中止となった。また、3月3日から全館とも臨時休館となったため、来館者数は目標値20,107人に対して実績値13,925人に減少した。 |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|--|
| ①実施時期 | R2.4.1~R3.3.31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度当初から臨時休館が続いたことから、再開後の来館者増に繋がるよう、文化財資料を活用した学習支援コンテンツを作成し、ホームページに掲載するなど、魅力ある川口の文化財のPRに努めている。 なお、一部制限はあるが、6月1日から見学を再開しており、来館者に対しアンケートを実施し、これを企画展や文化行事の充実に反映させるとともに、館同士が連携し、より多くの市内外の方々に興味を持ってもらえるよう周知方法を工夫し、来館者数の増加に努めていく。 |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|--|---------|---------|--------------------------------|--------------------------------|----------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 12,500人 | 12,900人 | 13,300人 | 13,700人 (20,107人) | 14,000人 (20,494人) |
| ※目標値再設定について、令和2年度の目標値を達成したことにより設定するもの。新たな目標値：平成30年度の実績値に平成28から30年度の実績値の増加分の10%を令和元年度・2年度にそれぞれ加えたものを目標値とする。 | 15,842人 | 16,049人 | 19,720人 ※歴史自然資料館 72,431人 | 13,925人 ※歴史自然資料館 58,700人 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|---|
| | C | <p>児童生徒の学びの場として、夏休み期間中入館料を無料にし、歴史や文化財についての自由研究サポート相談を実施するとともに、勾玉づくり体験教室等を開催し、230人の参加者があった。</p> <p>しかしながら、新型コロナウイルス感染症による各種行事の中止や、臨時休館の影響等により、本館・分館の来館者数が前年度と比較して5,795人減少し、目標値を下回ったことから、C評価とする。</p> <p>また、歴史自然資料館も13,731人減少という結果であった。</p> |
| | A | <p>平成30年度における文化財センター・旧田中家住宅・郷土資料館の来館者数については、川口宿鳩ヶ谷宿日光御成道まつり開催に併せ、郷土資料館を中心として各サテライト会場と連携した企画展の開催し、旧田中家住宅については、引き続き主催・共催の文化行事の更なる充実をはかり、また12月には国重要文化財に指定されたこともあり来館者が増加し、目標値に対し実績値は6,420人上回り目標を達成したことから、評価結果はAとした。</p> <p>なお、平成30年4月に開館した歴史自然資料館は、赤山歴史自然公園（イナパーク川口）内にあることから、多くの来館者があり、72,431人であった。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|--|
| | B | <p>実績値は平成30年度を下回り、目標値に達していないが、昨年度は企画展の充実などにより例年を大幅に上回る来館者数があり、その実績を基に新たな目標値を設定したものであること、新型コロナウイルス感染症の影響がなければ例年どおり16,000人ほどの来館者を見込めたことから、評価はBとする。</p> <p>また、児童生徒向けのイベントの開催や各学校への広報活動を積極的に行っていること、学習支援コンテンツを作成し多くの方に閲覧されていることなど、来館につながるような工夫がなされており評価できることから、今後も継続してほしい。</p> |
| | A | <p>年間来館者数の実績値は、本館分館が連携した企画展の充実や、旧田中家住宅が国重要文化財に指定されたことを受け、目標値を大幅に上回っていることから、評価はAとする。</p> <p>平成30年4月に開館した歴史自然資料館も多くの市民が来館しており、各施設と連携をはかった文化行事や企画展も来館者数の増加に貢献しており、高く評価できる。</p> <p>今後は、児童生徒が学びの場として利用しやすいように、学校を通した周知方法を工夫するとともに、文化財センター等の無料開放の拡充を推進して欲しい。</p> |

基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用

指標(2) 古文書・写真等資料の収蔵点数

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|--|----------------|----------------------|--------------------|
| <p>解説・データベース化し活用されていく前提となる、古文書・写真等資料の収蔵(寄贈・寄託)されている数として、この指標を設定した。</p> | <p>今後の古文書等資料収集数はそう多く見込むことができないことから、平成27年9月現在の収蔵点数の116点増加を目標値とした。</p> | 88,906点 | 89,000点 (89,257点) | 92 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | H31.4.1～R2.3.31 |
| ②実施内容 | <p>古文書所有者からの調査依頼に応じて、寄贈並びに寄託の手続きを経て収蔵した。平成31年(令和元年)度は、豪農の家柄で江戸時代から存在した旧家3件から調査依頼があり、江戸・明治・大正・昭和初期の資料を寄贈された。</p> |
| ③実施結果 | <p>元郷地区の旧家から江戸期の村方関係資料及び明治・大正期の旧家関係資料を57点、戸塚地区の旧家から明治・大正・昭和期の旧家関係資料を123点、西立野地区の旧家から江戸期の村方関係資料及び昭和期の旧家関係資料を19点、資料寄贈を受けた。その結果199点を追収蔵し、合計で90,758点となった。</p> |

令和2年度以降の取り組み

| | |
|----------------------|---|
| ①実施時期 | R2.4.1～R3.3.31 |
| ②見直し等が必要な事項、また見直した事項 | <p>平成31年(令和元年)度は、旧家からの新たな資料寄贈があったが、市内の旧家及び未調査資料は減少傾向にあることを考慮し、目標値の再設定は行わないこととする。</p> <p>なお、今後も古文書資料の調査・収集・保管に努めるとともに、展示会や講座等での活用、市民や個人研究者、学校教育などによる郷土の歴史学習の教材として利用を図っていく。</p> |

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|---|---------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | | | | | |
| ※ 目標値の再設定について 平成32年度の目標値を 平成28年度で達成した ことから再設定するもの。 新たな目標値： 平成28、29年度の増加分 の平均値の2分の1の値 (55点)を平成28年度の 実績値に加算し平成29年 度の目標値とする。以後 同様に加算し目標値と する。 ()内は新たな目標値 | 88,926点 | 88,946点 (89,092点) | 88,966点 (89,147点) | 88,986点 (89,202点) | 89,000点 (89,257点) |
| | 89,037点 | 89,128点 | 90,559点 | 90,758点 | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|---|
| | A | 平成31年（令和元年）度は、古文書資料199点を新たに収蔵することができた。内容的には、江戸時代の元郷村や立野村に関する資料や、戸塚地区の昭和20年代の地番図面など、地域の歴史を知る材料となる貴重な資料を収蔵することができたことから、評価結果はAとする。 |
| | 前回評価 A | 平成30年度は、1,431点の資料を新たに収蔵し、目標値を大幅に超えた。内容的には、芝村や安行村の旧家の家政に関わる近世後期から近現代にわたる資料、さらに昭和初期の川口市に関わる資料を収蔵することができたため、評価結果はAとする。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|--|
| | A | 古文書等資料の収蔵については順調に進められており、実績値が目標値を上回っていることから、評価はAとする。 収蔵点数は毎年増加しており、資料の中には立体物もあることから、収蔵場所の確保や収蔵物の管理が難しくなることが考えられる。今後は必要に応じた収蔵物の整理等にも努めてほしい。 |
| | 前回評価 A | 実績値が目標値を上回っており、古文書等資料の収集が着実に進められていることから、評価はAとする。 また、収集した古文書等資料についても、展示会や古文書解説講座など、市民が触れ合うことのできる場を提供しており、評価できる。 今後はさらに、児童生徒に向けて、学校教育の場でも活用していけるように、学校と連携して取り組んでほしい。 |

基本目標V 教育行政経営の基盤強化

| 指標(1) 新市立高等学校建設における工事日程の進捗率 | | | | |
|--|--|----------------|-------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R2) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| 平成30年度の開校、そして令和3年度の工事完了を目標としているため、この指標を設定した。 | 令和3年度8月の工事完了に向け、工程どおりに工事を進めていくことが最重要であるため。 | 8.5% | 93.0% | 98 |

平成31年(令和元年)度の実施状況

- ①実施時期 H31.4.1～R2.3.31
- ②実施内容
- ・アリーナ棟建設工事
 - ・既存校舎棟(川口高等学校)解体工事
 - ・工事監理業務
- ③実施結果
- 平成31年1月より開始したアリーナ棟建設工事及び令和元年12月より開始した既存校舎棟の解体工事について、予定どおりの進捗となっている。

令和2年度以降の取り組み

- ①実施時期 R2.4.1～R3.3.31
- ②見直し等が必要な事項、また見直した事項
- 新型コロナウイルス感染症の影響のため、資機材、技術者が確保できない等の事情による工事の一時中断、また、それに伴う工程、全体事業費の見直しが生じる可能性があるが、目標値の達成に向け、計画通り工事を進めていけるよう 監理に取り組む。

| 集計年度 | H28 | H29 | H30 | H31 (R1) | R2 |
|------|-------|-------|-------|----------|-------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 25.4% | 42.3% | 59.2% | 76.1% | 93.0% |
| | 25.4% | 42.3% | 59.2% | 76.1% | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|---|
| | A | 既存校舎棟の解体工事及びアリーナ棟の建設工事など、令和3年の事業完了に向け、予定どおりの進捗となっているため。 |
| | 前回評価 | 既存校舎棟の解体工事及びアリーナ棟の建設工事など、令和3年の工事完成に向け、予定どおりの進捗となっているため。 |
| | A | |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|---|
| | A | 建設工事の進捗率の実績値は、目標値に達しており、工事は順調に進んでいることから、評価はAとする。 今後も令和3年度の完成へ向け、学校現場の声を取り入れながら、誰もが使いやすい校舎となるように施設整備を進めるとともに、川口のリーディング校として充実した教育環境となるように努めてほしい。 |
| | 前回評価 | 建設工事の進捗率の実績値は、目標値に達しており、工事は計画通りに進んでいることから、評価はAとする。 川口市立高等学校の校舎は、斬新でデザイン性の高い校舎となっているが、実際に使用中で、使い勝手の面で問題が出てくることもあると思うので、校舎建設時のデザインを損なわないよう留意しながら、誰もが利用しやすい校舎になるよう努めてほしい。 |
| | A | |